

**【報告】**

# 北海道松前町福山城下町遺跡小松前町地点発掘調査報告

関根 達人

## 1. 調査の目的と概要

北海道島は近世国家の北の境界域であり、江戸時代には近世大名松前氏が直接支配する道南渡島半島周辺の「和人地（松前地）」とアイヌ民族の居住地である道央・道東・道北の「蝦夷地」に大きく分かれていた。蝦夷地への和人と日本製品の進出は、単に日本の境界域を北に推し進めただけにとどまらず、近世和人社とアイヌ社会に多大な影響を及ぼした（関根2014・2016）。

蝦夷地交易は松前三湊（松前・箱館・江差）を介して行われた。政治的中心地でもあった松前は、長崎・対馬・琉球とともに、「四つの口」と呼ばれる近世日本の対外交渉地に数えられ、北方世界への窓口でもあった。筆者らは2007～11年に松前・江差・函館で総計7,095基の近世墓標の悉皆調査を行い、人と墓石・石材の観点から蝦夷地交易の推移を検討した（関根編2012・2013、関根2018）。

松前での発掘調査はこれまで松前氏の居城である福山城跡に集中し、交易や生産活動の実態解明に不可欠な城下町の発掘調査は、町道朝日豊岡線代行事業改良工事に伴い行われた大松前川左岸の旧蔵町地点の調査（北海道埋蔵文化財センター2012）など極めて限定的であった。弘前大学では2017年度に福山城跡東方の馬形丘陵上の武家屋敷地を発掘調査し、幕末のゴミ穴から出土した多量の遺物に基づき、松前が化政期の梁川移封・復領を挟んで大きく変貌したことを明らかにした（関根編2018）。そして今回、近世初期から中期の実態解明のため、福山城跡の南側、城下町中心部の小松前町で発掘調査を行った。発掘調査の要項は以下の通りである。

**研究目的** 近世国家北方領域境界域における物資流通に関する考古学的研究

**研究資金** 公益社団法人三菱財団研究助成（助成ID：29212）

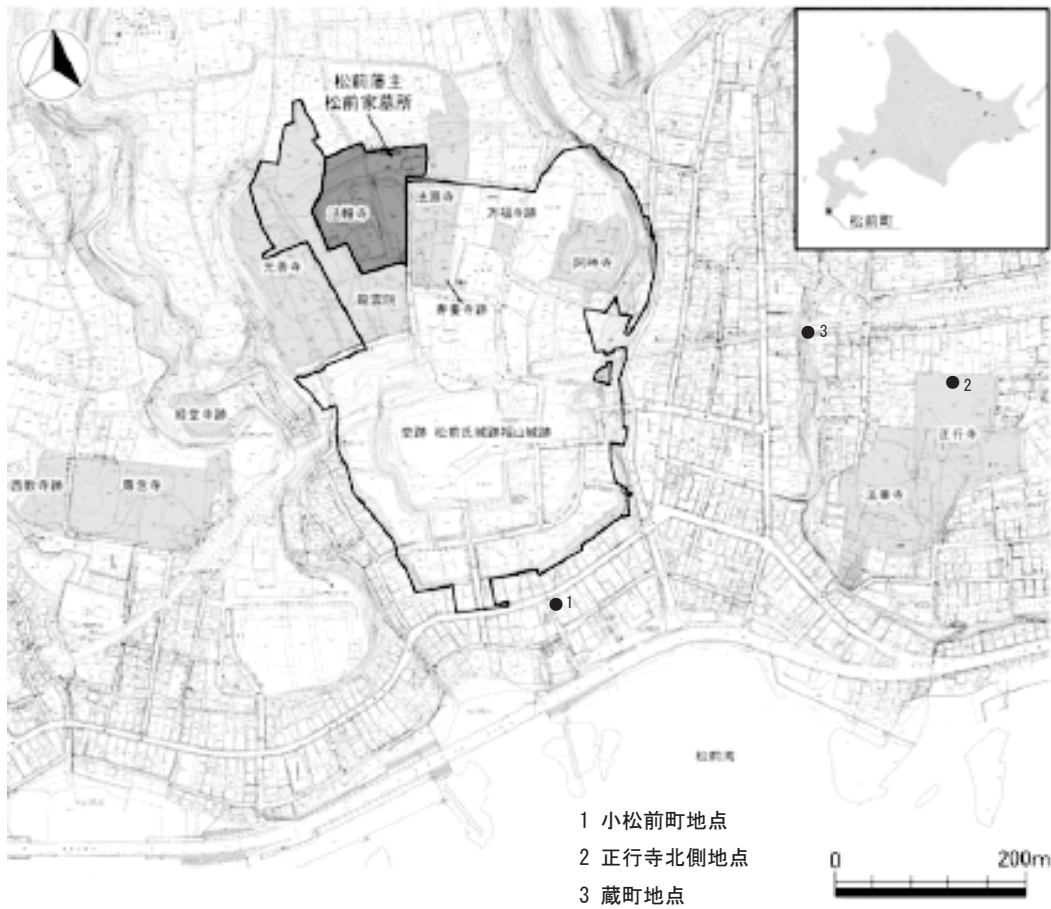
**調査期間** 2018年8月18日（土）～8月28日（火）（11日間）

**発掘調査面積** 36㎡

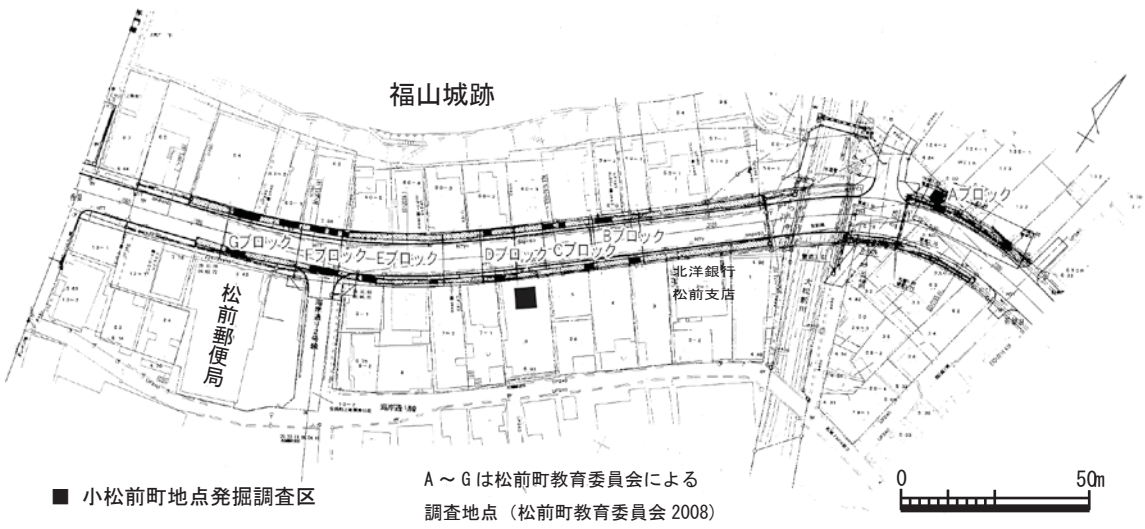
**調査主体** 弘前大学人文社会科学部文化財論研究室

**調査担当** 関根達人（弘前大学人文社会科学部・教授）、片岡太郎（同・専任講師）

**調査協力** 松前町教育委員会



- 1 小松前町地点
- 2 正行寺北側地点
- 3 蔵町地点



■ 小松前町地点発掘調査区

A～Gは松前町教育委員会による調査地点（松前町教育委員会 2008）

図1 北海道松前町福山城下町遺跡小松前町地点と発掘調査区的位置

## 2. 調査地点の地理的・歴史的環境

発掘調査地点は、史跡福山城跡の南側、城下町通りの海側に面した場所で、標高約6m程度の低位段丘面に立地する。江戸時代には調査区の南側を東西に走る道路から南は海浜で、現在も道路沿いに段差が残っている（図1）。本調査地点周辺では、城下町通りの整備事業に伴い松前町教育委員会が小規模な発掘調査を実施しているが、いずれも調査区が狭いため生活面の数や遺構の配置状況は明確になっていない（松前町教育委員会2006・2007・2008・2015）。そのなかで本調査区に最も近いDブロックの調査では、土台石・石列・木製開渠などの遺構や17世紀中葉以降の肥前磁器などが発見されている（松前町教育委員会2008）。

オタルナイの場所請負人で松前に出店していた近江商人の恵比寿屋岡田弥三右衛門から依頼を受け、小玉貞良（?～1759）が宝暦（1754～1764）前半に福山城下を描いた「松前屏風」では、発掘調査地点付近に城下の通りに沿って短冊状の地割りのなかに軒を連ねる町屋が確認できる（図2）。通りの南側の町屋は、通りに面した店舗、その奥（海側）の庭と蔵から構成されている。文化年間（1804～1817）の福山城下の町割りを描いた『松前分間絵図』では、本調査地点付近に「平田惣和二」の名前が確認される（図3）。平田惣和二（惣和次または惣和治）は、文化4年（1807）の松前藩家臣名簿によれば中書院<sup>1)</sup>で、同年に松前藩が梁川移封された際に「永之御暇」の対象となり、20両と米5俵が下賜されている<sup>2)</sup>。梁川移封期に作られた『松前分間絵図』で町家である小松前町に平田惣和二の名前が書かれているのは、「永之御暇」により松前に残って商売を始めたからであろうか。

明治27年（1894）頃の商家配置図では、調査地付近は「栖原屋」と表記されている（図4）。蝦夷地と本州との交易や漁場経営で有名な栖原屋は紀州出身の商人で、明和5年（1765）、5代目（茂勝）の時に松前の小松前町に出店しており、調査地点は江戸中期から明治中期まで、栖原角兵衛の店舗の一角であったと考えられる。松前町教育委員会の佐藤雄生氏のご教示によれば、明治18年の『組合名簿』では、小松前町29番地は廻船問屋「栖原角兵衛」、同31番地は廻船問屋「青木知則」、同30番地（調査予定地）は不明となっている。また、明治27年刊行の『北海道実業人名録完』では小松前町29番地は物産商「岩田栄蔵」、同31番地は呉服太物商「妹尾猪助」となっており、同30番地（調査地点）は不明である。おそらく岩田や妹尾は栖原の所有地を借り受けて店舗を構えていたのであろう。なお、『北海道実業人名録完』によれば、小松前町（地番不詳）には岩田一族が経営する「岩田回漕店」が位置しており、調査地点がこれにあたる可能性がある。

松前では西向きの季節風が強く吹き乾燥する3月から4月にかけて火事が多く発生し、調査地点のある小松前町も江戸時代にはしばしば大火に見舞われている（表1）。

以上、本調査地点は18世紀半ばまでには大店が軒を連ねる商業地となっており、明和5年（1765）以降は幕末まで一貫して松前を代表する商人である栖原角兵衛の店舗の一角であったが、18世紀前半以前の土地利用については古記録が確認できない。



図2 18世紀中頃の小松前町付近（『松前屏風』）



図3 19世紀初頭の小松前町付近  
（『松前分間絵図』）

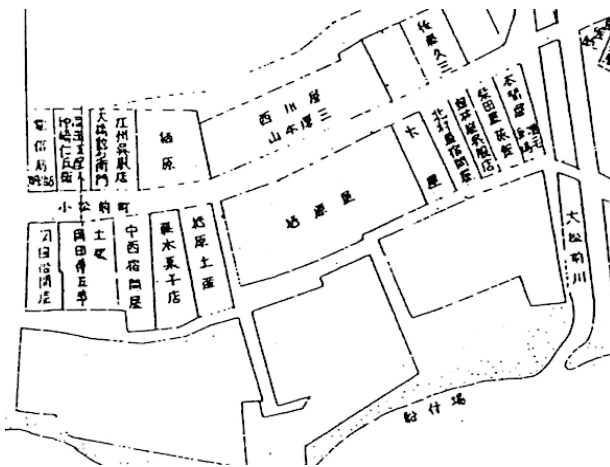


図4 『明治27年頃の商家絵図』  
に描かれた発掘調査地点周辺

表1 福山城下町の主な変災

和暦	西暦	変災等	出典
寛文元年	1661	小松前町災有	福山秘府・年歴之五
享保四年	1719	湯殿沢町より出火し、大火となり、侍屋敷51軒、民家223軒を焼く	松前年々記
享保十四年	1729	小松前町火災、民家14戸を焼く	福山秘府・年歴之六
元文元年	1736	松前袋町出火、民家117戸を焼く	福山秘府・年歴之六
寛保元年	1741	西部大島発火（噴火）、振動大山の崩れる如く、また白灰の雨降り、黒砂地上に積り、深きは数寸に達す 16日夜中より17日の明まで城下及部迄一面に焼灰降申候	福山秘府・年歴之六 常磐井家文書
寛政四年	1792	松前に降灰（大島噴火か）	ちしまのいそ
寛政九年	1797	大松前町 恵比須屋岡田（近江商人岡田家）より出火、大松前・浜町・泊川・馬形3町など西ひかた風にあおられ大火災となり、土民の家宅、庫蔵1,250余戸を焼き…	1620ヤソ会年報、福山年歴捷徑
文化十三年	1816	松前大火、焼失家屋200余軒に及ぶ	新北海道史年表、通航一覽（第8号）
天保三年	1832	松前大松前町出火、延焼900余戸に及ぶ	新北海道史年表、松前家記
天保四年	1833	松前大松前町より出火、類焼769軒に及ぶ	新北海道史年表、伊達家文書公用留、町年寄詰合日記
天保七年	1836	大松前「○本」と申す酒屋より出火。東は大松前町・枝ヶ崎町・端立町・後ろ町・中町・浜町・新町、西は小松前馬出口下まで、町御役所焼き、中町・横町・袋町・蔵町・中川原町・川原町・小館町を焼き…	白鳥家日記
天保八年	1837	松前大火、大松前町 岩屋善左衛門方より出火、類焼385戸に及ぶ	藤野家履歴書
慶応元年	1865	松前大火、中町・袋町・横町・小松前町を焼く	北門史綱
慶応四年	1868	箱館戦争における松前城攻防戦で城下主要地のほとんどを焼く（小松前町含む）	伊達家文書抄略
昭和四年	1929	小松前町の空家より出火し、隣家を2戸全焼して鎮火	福山誌
昭和十四年	1939	小松前町から発火、同町目抜き通り48戸を全焼	福山誌
昭和五十一年	1976	松城中心部浜側にある木工場から出火し、火は四散し、11棟11戸を全焼	北海道新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、北海タイムス、松前町史 『松前町史年表』より佐藤雄生氏作成



### 3. 基本層序と検出遺構

#### (1) 基本層序 (図5～7)

調査地点は、近代以降の盛土(1層)から地山の砂層(9層)面まで約3.4mあり、2層から8層までが江戸時代の整地層である。このうち、4層上面と5層上面は火災面で、出土陶磁器の被熱率は前者で約3割、後者では半数に達する(図23)。5～7層は山側からの客土を主体としており、近世初期の陶磁器に混じって縄文土器・石器(図31)や15世紀代の中国産青磁(図22-71～73)が含まれる。それらは慶長～寛永期に行われた造成に海岸段丘上の縄文時代の遺跡や松前大館跡周辺から運ばれた客土が使われたことを示している。一方、上層の2層上面や3層上面の生活面は、それぞれ下部(2-2層・3c層)に円礫や海揚がりの陶磁器を含む海砂を敷き、その上を黄褐色の粘土や砂利混じりの土で覆い、突き固めている。3層には海揚がり陶磁器が数多く含まれる(図24)。

以上、本地点では、17世紀前半にはより上位の段丘面から供給された山土で大規模な盛土(5～7層)を行っているのに対し、18世紀中葉以降は海側からの砂礫を主体とする盛土に変化している。

#### (2) 検出遺構

2層上面・3層上面・4層上面・5層上面・6層上面・9層(地山)上面の計6面の生活面が検出された。以下、上から順に生活面毎に検出遺構の概要を述べる。

##### 【2層上面】(図8)

2層上面は江戸後期の生活面で、ピットを9基、性格不明遺構1基を検出した。ピットは城下町通りに面する調査区の北側に偏って分布する。このうちピット2と8は組み合う柱穴で、ピット5には焼けて炭化した状態の柱が残っていた。明治元年(1868)11月の旧幕府軍による松前攻撃の際、福山城から退却する松前藩兵が放った火により城下の4分の3にあたる1980戸が焼失しており、ピット5から検出された炭化材は、その時に焼失した建物の柱材の可能性がある。

##### 【3層上面】(図9)

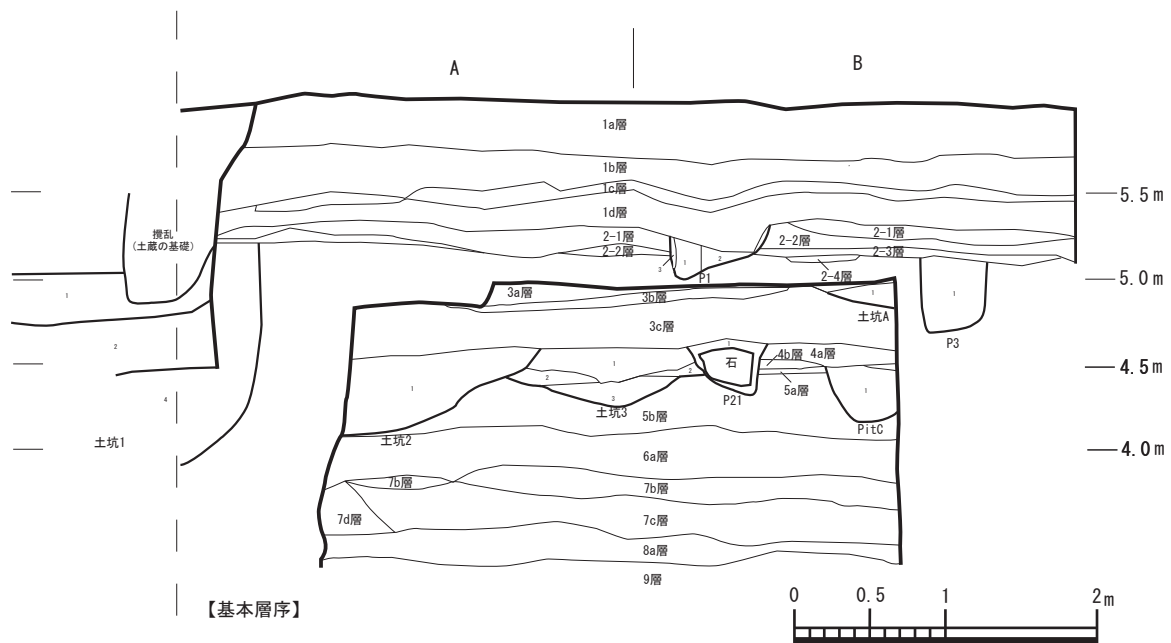
3層上面は江戸後期の生活面で、土坑2基とピット12基、漆喰が方形に貼られた性格不明遺構(SX2)1基を検出した。柱穴であるピット18をはじめこの遺構の周囲にはピットが集中する。

##### 【4層上面】(図10)

4層上面で確認された火災は、被災した陶磁器や表1に示した古記録から享保4年(1719)か14年の火災とみられる。土坑2～5は火災の後片付けに伴う廃棄土坑であり、埋土中には多量の炭と焼土を含む。土坑2からは人頭大の角礫、土坑3からは被熱痕のある陶磁器片がまとまって出土した。

##### 【5層上面】(図11)

5層上面は江戸前期の生活面で、火災に伴う炭化物や焼土を伴う。5層上面では土坑1基と4基のピットを検出した。土坑からは火災の後片付けの際に出た焼土や炭、被災した17世紀前半の陶



【基本層序】

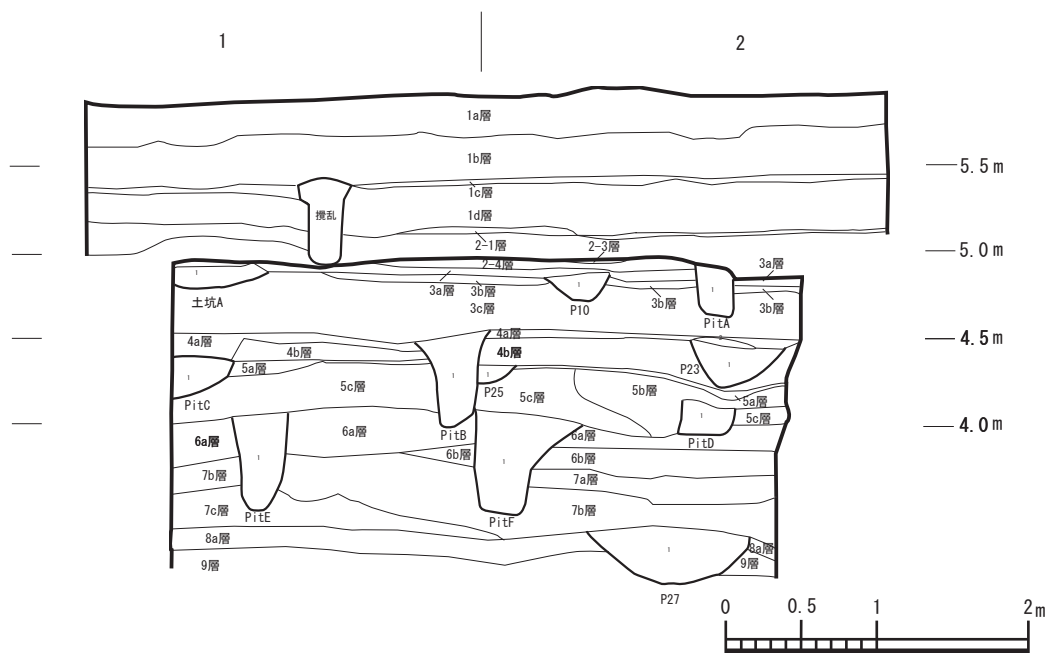
- <2-1層>  
 黒褐色 (7.5YR3/1)  
 砂質シルト・粘性無・しまり弱。  
 炭化物と径1cm以下の円礫を含む。
- <2-2層>  
 灰褐色 (5.5YR4/2)  
 砂質シルト・粘性無・しまり中。  
 径3cm以下の以下の円礫を含む。  
 黄褐色ロームブロックを多量に含む
- <2-3>  
 黄褐色 (10YR5/6)  
 黄褐色ロームブロックと炭化物を多く含む。  
 10YR3/2黒褐色シルト層の互層。
- <2-4>  
 灰オリーブ色 (7.5Y6/2)  
 粘質シルト・粘性有・しまり強。

- <土坑3>  
 埋土1層 灰黄褐色 (10YR4/2)  
 粘性シルト・直径5cm以下の円礫・  
 凝灰岩片を含む。  
 砂礫層を間に挟む。
- 埋土2層 青黒色 (5BG1.7/1)  
 炭化物層。  
 焼土ブロック・17世紀後半～  
 18世紀初の陶磁器片を含む。
- 埋土3層 黒褐色 (10YR3/2)  
 砂質シルト・粘性無・しまり無。  
 炭化物と焼土を大量に含む。  
 4層上面の火災に伴う廃棄土坑。

- <土坑1>  
 埋土1層 オリーブ灰色 (5GY)  
 砂質シルト・粘性無・しまり弱。  
 風化した凝灰岩からなる層。  
 土坑1のくぼみを埋めるために盛られた層。
- 埋土2層 黄褐色 (10YR3/5)  
 シルト・粘性無・しまり弱。  
 途中にレンズ状に砂礫層が薄く入る。
- 埋土3層 (西壁)  
 埋土2と埋土3に挟まれている砂礫層。
- 埋土4層 黒褐色 (10YR3/1)  
 砂質シルト・粘性無・しまり弱。  
 円礫を少量含む均質な層。

- <Pit1>  
 埋土1層 黒褐色 (7.5Y3/5)  
 砂質シルト・粘性無・しまり無。  
 柱痕。炭化物や黄褐色ロームブロックを含む。
- <Pit21>  
 埋土1層 黒褐色 (10YR3/2)  
 砂質シルト粘性無・しまり無。  
 炭化物を少量含む。
- <Pit3>  
 埋土1層 黒褐色 (7.5YR3/2)  
 砂質シルト  
 3層に由来する黄褐色ロームブロックを多く含む。

図5 調査区北壁



<土坑A>

埋土1層 灰黄褐色(10YR4/2)  
シルト・粘性無・しまり無。  
炭化物・黄褐色ロームブロックを含む。  
直径3cm以下の円礫・角礫を含む。

<Pit10>

埋土1層 灰黄褐色(10YR4/2)  
シルト・粘性無・しまり弱。  
直径3cm以下の円礫と3b層に由来する黒色土を含む。

<Pit23>

埋土1層  
4層上面の火災に由来する炭化物・焼土の層。

埋土2層 灰黄褐色(10YR5/2)

砂質シルト・粘性無・しまり中。  
4b層に由来する円礫とロームブロックをまだらに含む。

<Pit25>

埋土1層  
5層上面の火災に由来する炭化物・焼土の層。

<Pit27>

埋土1層 (5GY2/1)  
砂。5b層に由来する7.5YR6/8の砂がまだらに含まれる。  
炭化物・直径5cm以下の円礫・角礫を含む。

<PitA>

埋土1層 灰褐色(10YR4/1)  
砂質シルト・粘性無・しまり弱。  
直径5cm以下の円礫を含む。

<PitB>

埋土1層 黒褐色(10YR3/2)  
砂質シルト・粘性無・しまり弱。  
炭化物・焼土・黄褐色ロームブロックを含む。  
直径10cm以下の円礫を含む。

<PitC>

埋土1層 黒褐色(7.5YR3/1)  
シルト・粘性弱・しまり無。  
炭化物・直径3cm以下の円礫を含む。

<PitD>

埋土1層 黒褐色(10YR3/1)  
砂質シルト・粘性無・しまり無。  
炭化物・焼土を含む。

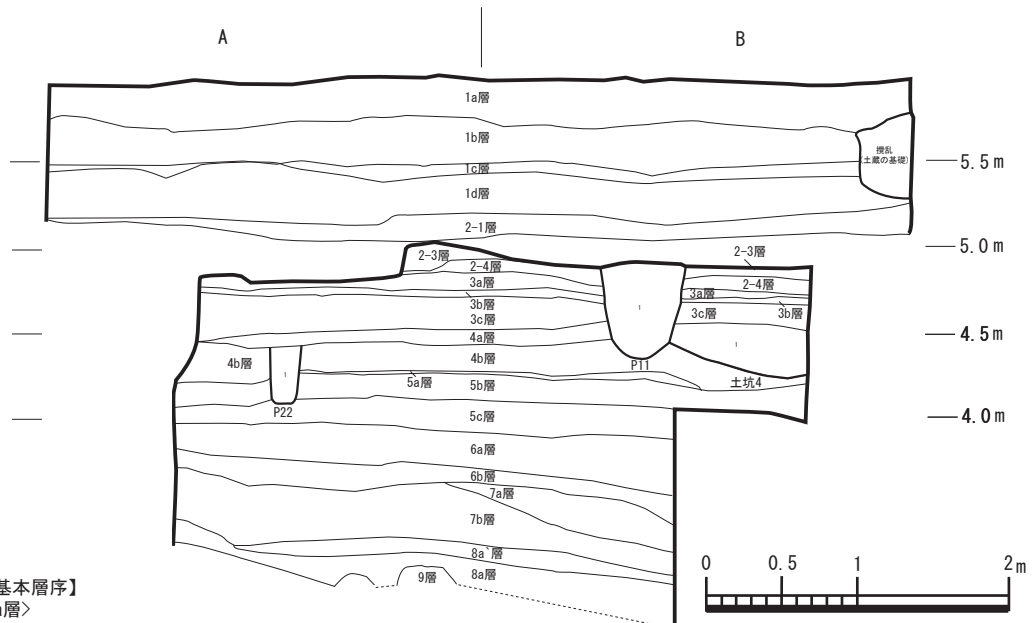
<PitE>

埋土1層 黒褐色(10YR3/2)  
シルト・粘性弱・しまり無。  
7c層に由来する凝灰岩片・直径3cm以下の円礫を含む。

<PitF>

埋土1層 黒褐色(10YR3/2)  
砂質シルト・粘性無・しまり弱。  
黄褐色ロームブロック・直径5cm以下の円礫を含む。

図6 調査区東壁



【基本層序】

<3a層>

明褐色 (7.5YR5/6)

粘性シルト・粘性有・しまり中。

<3b層>

緑黒色 (5G1.7/1)

シルト・粘性無・しまり中。

黄褐色ロームブロックや炭化物を含む。

<3c層>

青灰色 (5BG6/1)

砂礫層・18世紀代の陶磁器片を含む。

<4a層>

青黒色 (5BG1.7/1)

炭化物層。焼土ブロックを含む。

17世紀後半～18世紀初の陶磁器片を含む。

<4b層>

灰黄褐色 (10YR4/2)

粘性シルト・直径5cm以下の円礫・

凝灰岩片を含む。

砂礫層を間に挟む。

<5a層>

青黒色5B1.7/1)

炭化物層。

焼土ブロックを含む。

明末の磁器や胎土目の唐津焼を含む。

<5b層>

橙色 (7.5YR6/8)

粘性シルト・粘性弱・しまり強。

5c層との間に部分的に砂礫層が薄く入る。

<5c層>

褐灰色 (10YR4/1)

砂質シルト。

握り拳大以下の円礫・角礫を含む。

<6a層>

黒褐色 (10YR3/1)

砂質シルト・粘性無・しまり弱。

握り拳大以下の礫・黄褐色ロームブロック

・炭化物・焼土が混じる。

<6b層>

黒褐色 (10YR2/2)

砂質シルト・粘性無・しまり無。

炭化物・直径3cm以下の円礫を含む。

<7a層>

青灰色 (5BG6/1)

砂礫層。

<7b層>

黒褐色 (10YR3/1)

砂質シルト・粘性無・しまり弱。

炭化物・直径5cm以下の円礫を含む。

貝や縄文土器・15世紀代の

青磁が含まれる。

<7c層>

にぶい黄橙色 (10YR7/3)

風化凝灰岩・粘性無・しまり強。

<7d層>

黒褐色 (10YR3/2)

シルト・粘性無・しまり無。

<8a'層>

灰色 (2.5YR5/1)

砂層・粘性無・しまりなし。

円礫を多く含む。

<8a層>

オリーブ黒色 (5GY2/1)

砂。

上面に胎土目の唐津焼・志野焼を含み、

薄い炭化物層が部分的にある。

炭化物の粒子を含む。

<9層>

灰色 (7.5Y5/1)

砂・粘性無・しまり無。

地山。

【遺構】

<土坑4>

埋土1層 青黒色 (10BG1.7/1)

砂質シルト・粘性無・しまり弱。

4層の火災に伴う廃棄土坑。

炭化物と焼土を大量に含む。

握り拳大の角礫を多く含む。

<Pit11>

埋土1層 暗褐色 (7.5YR3/3)

シルト・粘性弱・しまり弱。

炭化物・焼土・円礫を含む

<Pit22>

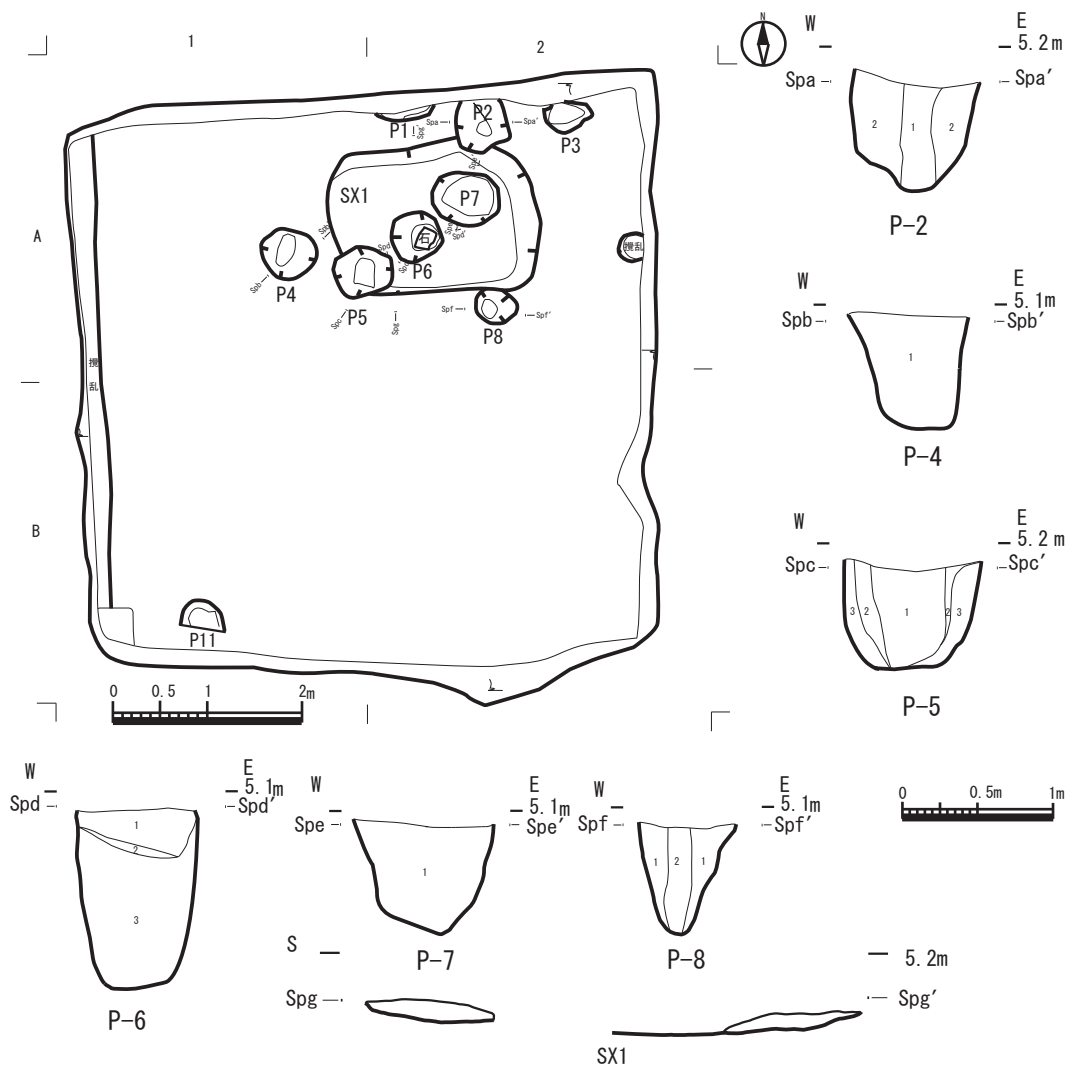
埋土1層 黒褐色 (10YR3/2)

砂質シルト・粘性弱・しまり弱。

5層に由来する炭化物を多く含む。

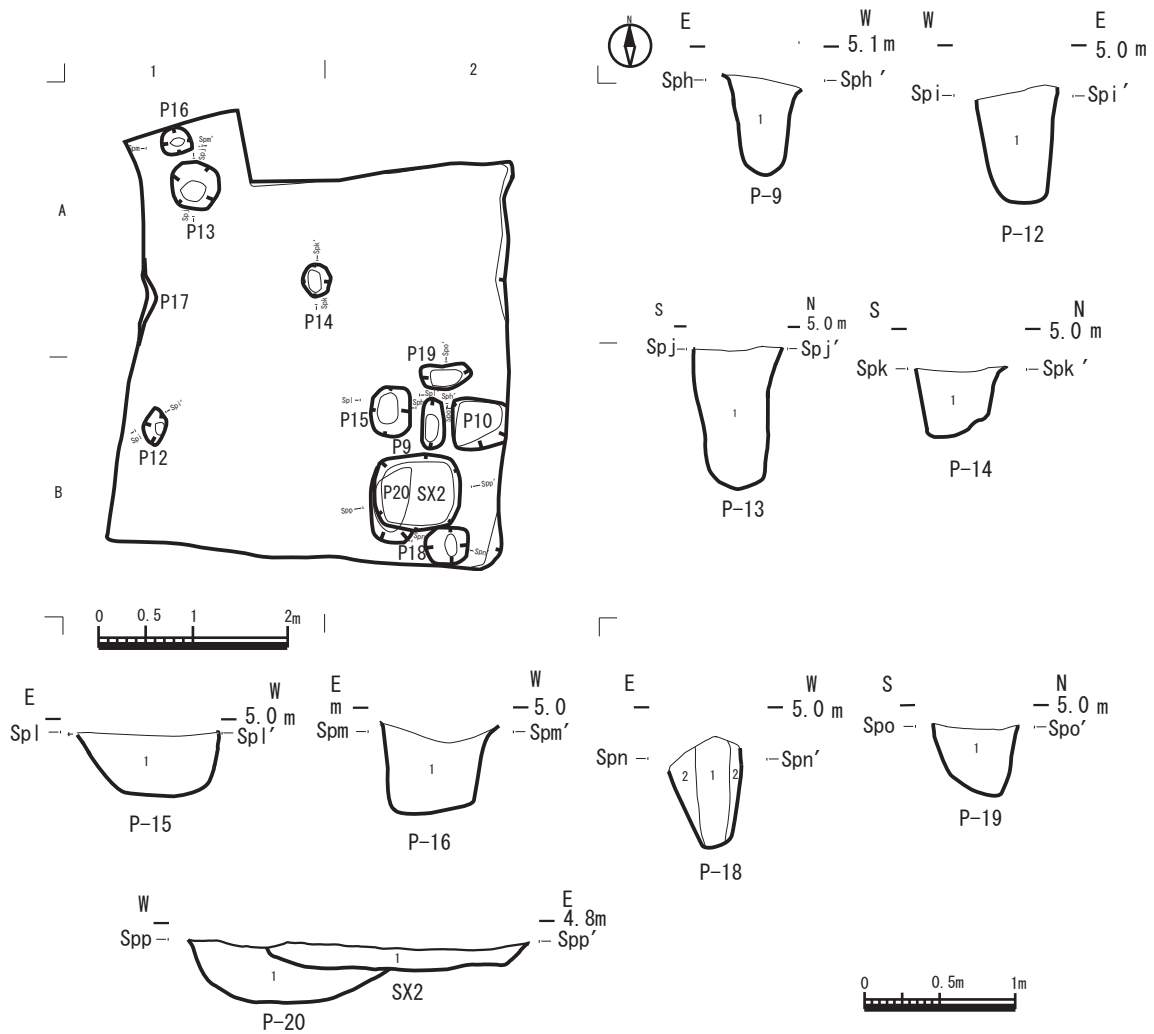
図7 調査区南壁





遺構	層位	土色	備考
pit2	埋土1	暗褐色(10YR3/4)	砂質シルト・黄褐色ロームブロックを含む。直径5~10cmの円礫を含む。
	埋土2	暗褐色(10YR3/4)	砂質シルト・黄褐色ロームブロックを含む。直径5cm以下の円礫を含む。
pit4	埋土1	暗褐色(10YR3/4)	砂質シルト・黄褐色ロームを多く含む。直径5cm以下の円礫を含む。
	埋土2	暗褐色(10YR3/4)	砂質シルト・黄褐色ロームを多く含む。直径5cm以下の円礫を含む。
pit5	埋土1	黒褐色(10YR3/2)	シルト・粘性弱・しまり弱。握り拳大の角礫を大量に含む。炭化物を多く含む。黄褐色ロームブロックを含む。
	埋土2	黒色(10YR2/1)	炭化物層。立ったままの状態で見られる。
	埋土3	明褐色(7.5YR5/6)	ローム・粘性無・しまり中。混じりけのないローム。柱穴掘り方埋土。
pit6	埋土1	暗褐色(10YR3/4)	砂質シルト・黄褐色ロームを多く含む。直径5cm以下の円礫を含む。
	埋土2	明黄褐色(1.5YR5/8)	黄褐色ローム・粘性中・しまり中。
pit7	埋土1	暗褐色(10YR3/4)	砂質シルト・黄褐色ロームを多く含む。直径5cm以下の円礫を含む。
	埋土2	黒褐色(10YR3/1)	礫砂質シルト・粘性無・しまり弱。直径3cm以下の円礫を多く含む。灰白色の凝灰岩ブロックを含む。
pit8	埋土1	暗褐色(10YR3/4)	砂質シルト・黄褐色ロームを多く含む。直径5cm以下の円礫を含む。
	埋土2	黒褐色(7.5YR3/2)	シルト・粘性無・しまり弱。直径3cm前後の円礫を含む。
SX1	埋土1	黒褐色(7.5YR3/2)	シルト・粘性無・しまり中。炭化物・黄褐色ロームを含む。
	埋土2	明褐色(7.5YR5/6)	ローム・粘性弱・しまり強。

図8 2層上面の遺構



遺構	層位	土色	備考
pit9	埋土1	褐灰色 (10YR4/1)	砂質シルト・粘性無・しまり弱。黄褐色ロームブロック、直径3cmの円礫を多く含む。炭化物を含む。
pit12	埋土1	黒褐色 (10YR3/2)	シルト・粘性弱・しまり弱。黄褐色ロームブロック・直径5cm以下の円礫を多く含む。
pit13	埋土1	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト・粘性無・しまり弱。直径3cm以下の円礫を多く含む。黄褐色ロームブロックを含む。
pit14	埋土1	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト・粘性無・しまり弱。直径3cm以下の円礫を多く含む。黄褐色ロームブロックを含む。
pit15	埋土1	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト・粘性無・しまり弱。炭化物・直径5cm以下の円礫・黄褐色ロームブロックを多く含む。
pit16	埋土1	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト・粘性弱・しまり弱。握り拳大の円礫を多く含む。
pit18	埋土1	褐灰色 (7.5YR4/1)	砂質シルト・粘性無・しまり弱。直径3cm以下の円礫・黄褐色のロームブロックを多く含む。柱痕か？
pit19	埋土2	黒褐色 (7.5YR3/2)	砂質シルト・粘性無・しまり弱。
	埋土1	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト・粘性弱・しまり弱。黄褐色ロームブロック、径1cm以下の円礫を大量に含む。
pit20	埋土1	暗褐色 (10YR3/3)	砂質シルト・粘性弱・しまり弱。炭化物、直径3cm以下の円礫を含む。
SX2	埋土1	灰白色 (2.5Y8/2)	粘性無・しまり強。漆喰または貝灰層。

図9 3層上面の遺構

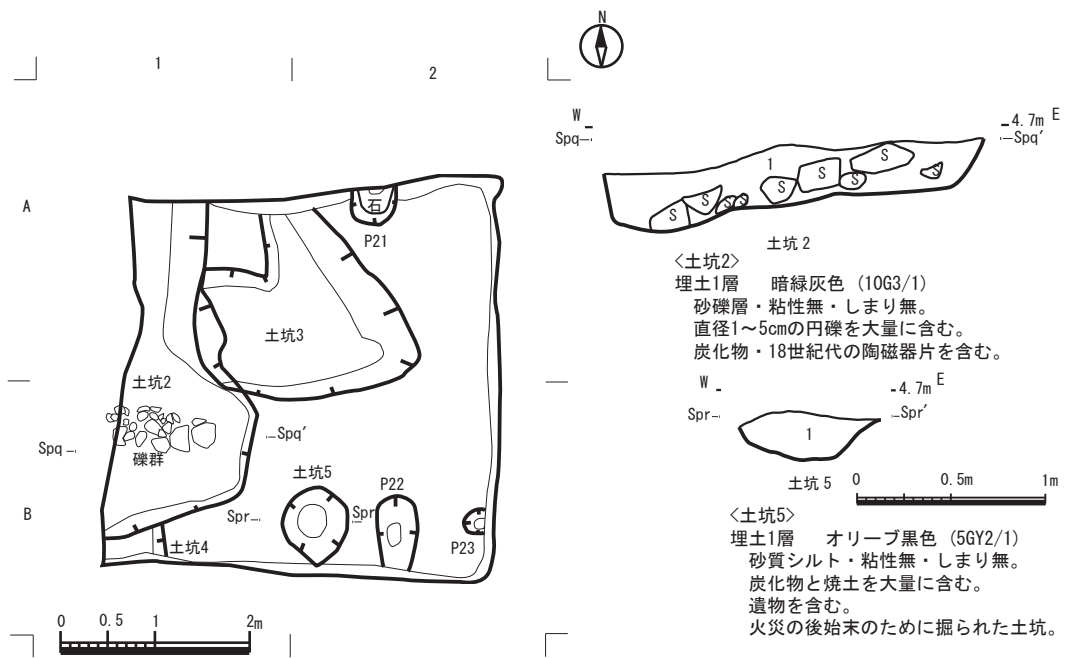


図10 4層上面の遺構

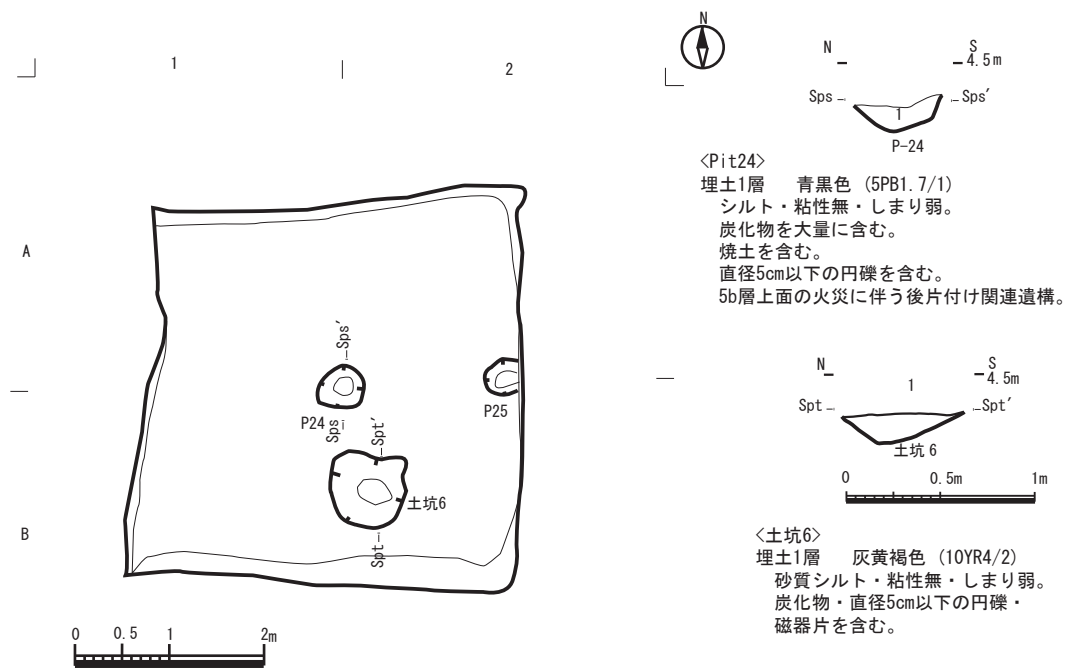


図11 5層上面の遺構

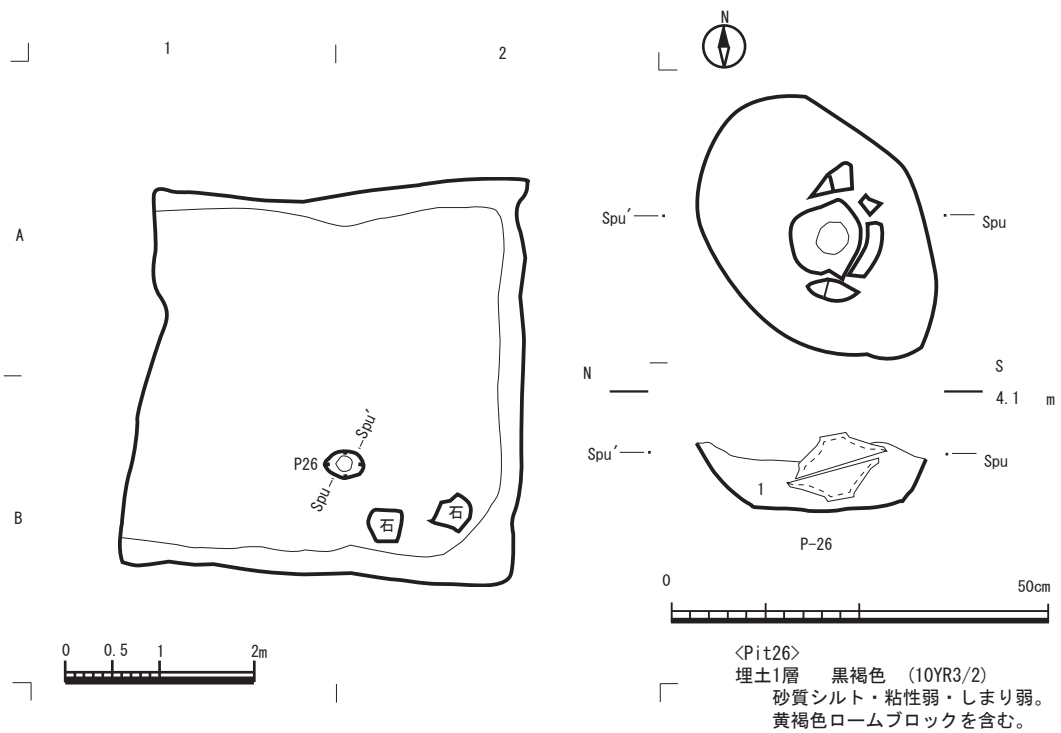


図12 6層上面の遺構

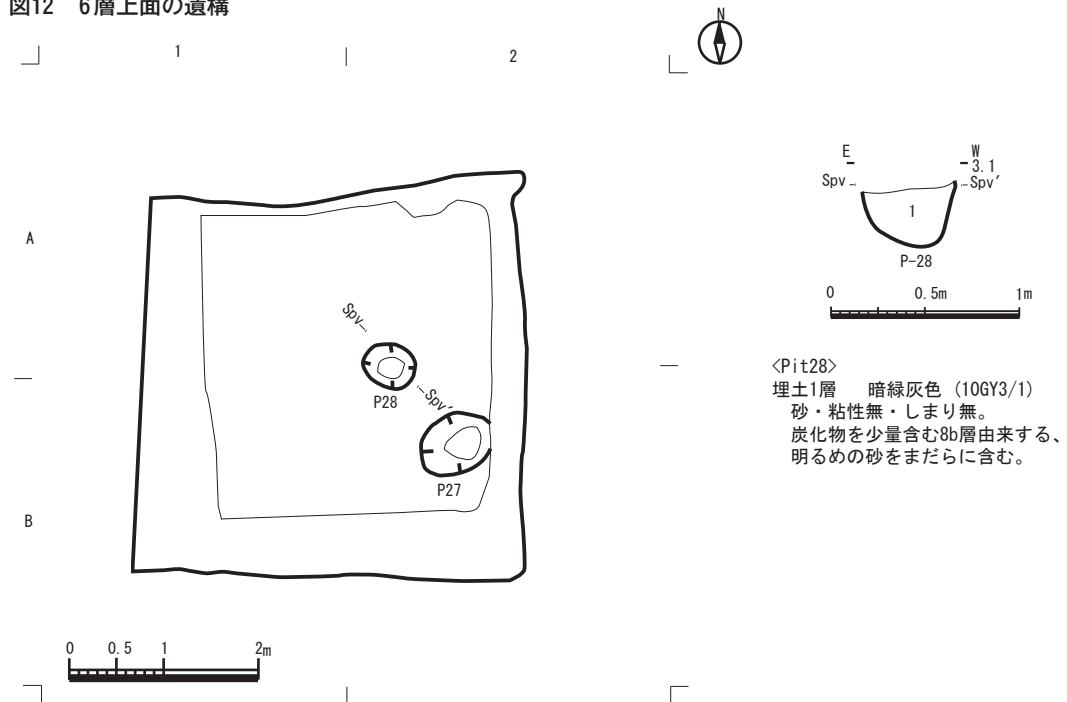


図13 9層上面の遺構

磁器類が出土した。5層上面で確認された火災の発生年代は、被災した陶磁器から17世紀第2四半期と考えられるが、古記録は残っていない。

#### 【6層上面】(図12)

6層上面は江戸初期の生活面で、3基のピットを検出した。うちピット26からは、灯明皿に使われた胎土目積の唐津焼小皿が2点、上(図21-52)下(図21-53)に合わせ口の状態で発見されており、地鎮遺構と考えられる。

#### 【9層上面】(図13)

9層は地山の砂層で、上面からは2基のピットが検出されている。9層上面の遺構を覆う8層から出土した陶磁器類から、9層上面の遺構は近世初期と考えられる。

### 4. 出土遺物

整地・盛土層や土坑などの遺構内から17・18世紀代の陶磁器をはじめとする遺物が出土した。総量はコンテナ(60×40×15cm)で約10箱である。出土遺物には、陶磁器・土師質土器・瓦・木製品・漆器・金属製品・骨角製品・土器・石器・動物遺存体がある。

#### (1) 陶磁器(図14～22、表2・3)

出土陶磁器は、同一個体認定後に口縁部でカウントして246個体、同じく口縁部以外も加えると811個体である(表4・5)。層位別では3層から最も多くの陶磁器が出土しており、次いで5層や4層、4層上面の遺構からの出土が目立つ。

器種組成は、全体では碗が皿をやや上回っているが、6層以下では皿が碗より多い。碗と皿以外には瓶類・鉢類・壺甕類などがみられる(図25)。磁器と陶器の割合は、全体では約4:1で磁器が卓越するが、5層より上層に比べ、6層以下は陶器の比率がやや高い傾向がみられる(図26)。

磁器の産地は、5層上面より上層と5層以下とで全く様相が異なる。すなわち5層以下から出土した磁器は、7層から出土した内面に菊花文を描いた初期伊万里の染付小皿(61)を除き全て中国製品であるのに対して、5層上面より上層では磁器の9割以上を肥前製品が占める(図27)。中国産磁器は景德鎮窯の大ぶりの碗(37・39～41・70)や小皿(42・58～60・66)が圧倒的に多く、漳州窯製品は大皿(38)と小皿(43)がみられる。このうち5層から出土した色絵大碗(39)は、いわゆる呉州赤絵と呼ばれ茶席の菓子鉢に用いられることが多いもので、火災による被熱痕が認められる。

陶器は全体の9割弱を肥前製品が占めており、他に瀬戸・美濃、越前、備前、信楽がある(図28)。瀬戸・美濃と備前は5層以下に限られ、器種は越前と備前は播鉢、信楽は茶壺に限定される。瀬戸・美濃製品には織部の折縁小皿(46)、天目茶碗(62)、志野小皿(69)がある。

享保の火災の後片付けに伴う廃棄土坑である土坑3からは、肥前磁器(13・14)、信楽焼茶壺(15)、肥前現川焼碗(16)、唐津焼壺(24)などに伴い、佐賀県武雄市周辺で生産された緑褐釉刷毛目文大鉢(18～23)がまとまって出土した。



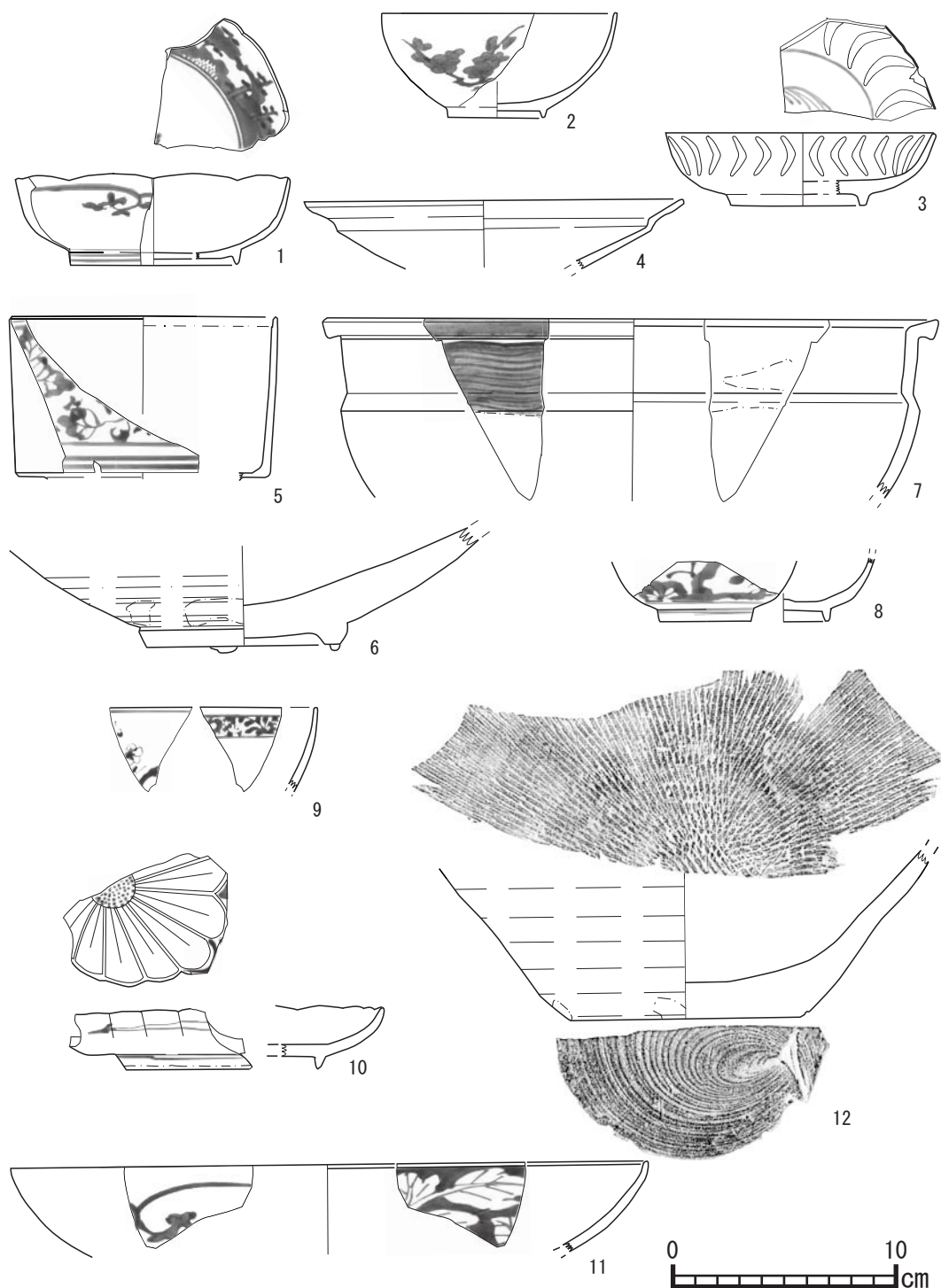


图14 出土陶磁器 (1) 層位不明 · 1層 · 2層 · 3層 · 土坑1 · 土坑2

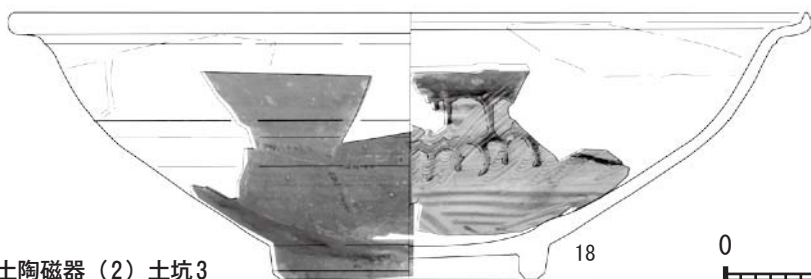
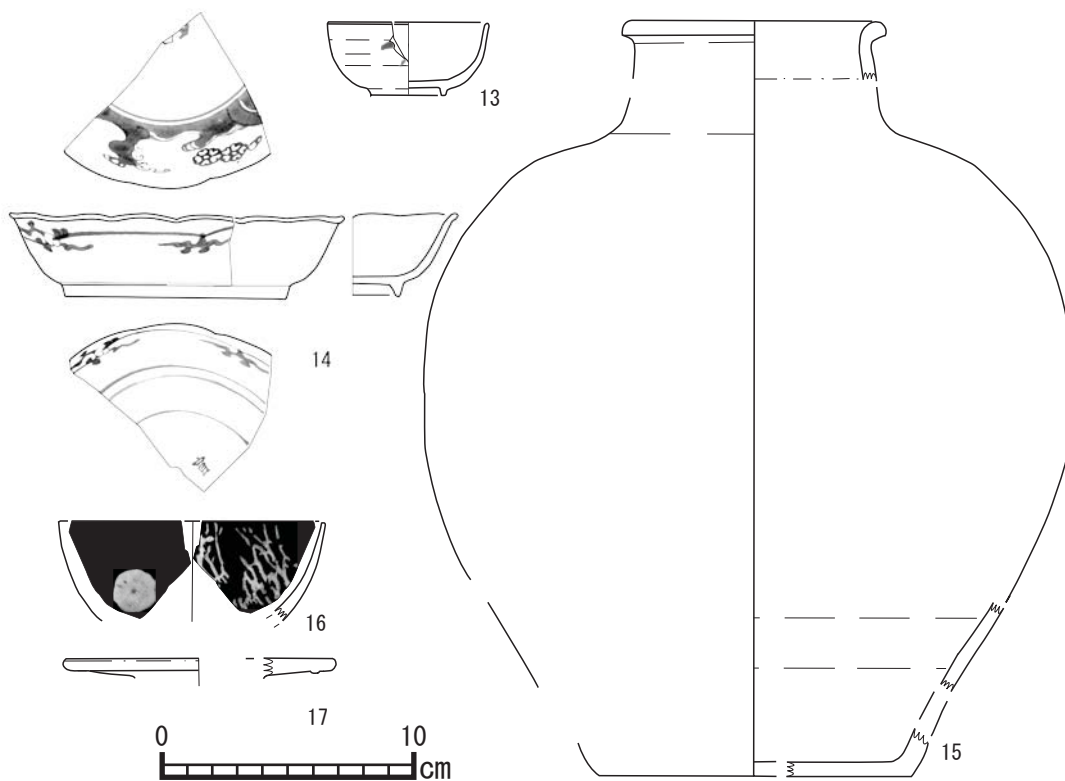


图15 出土陶磁器 (2) 土坑3

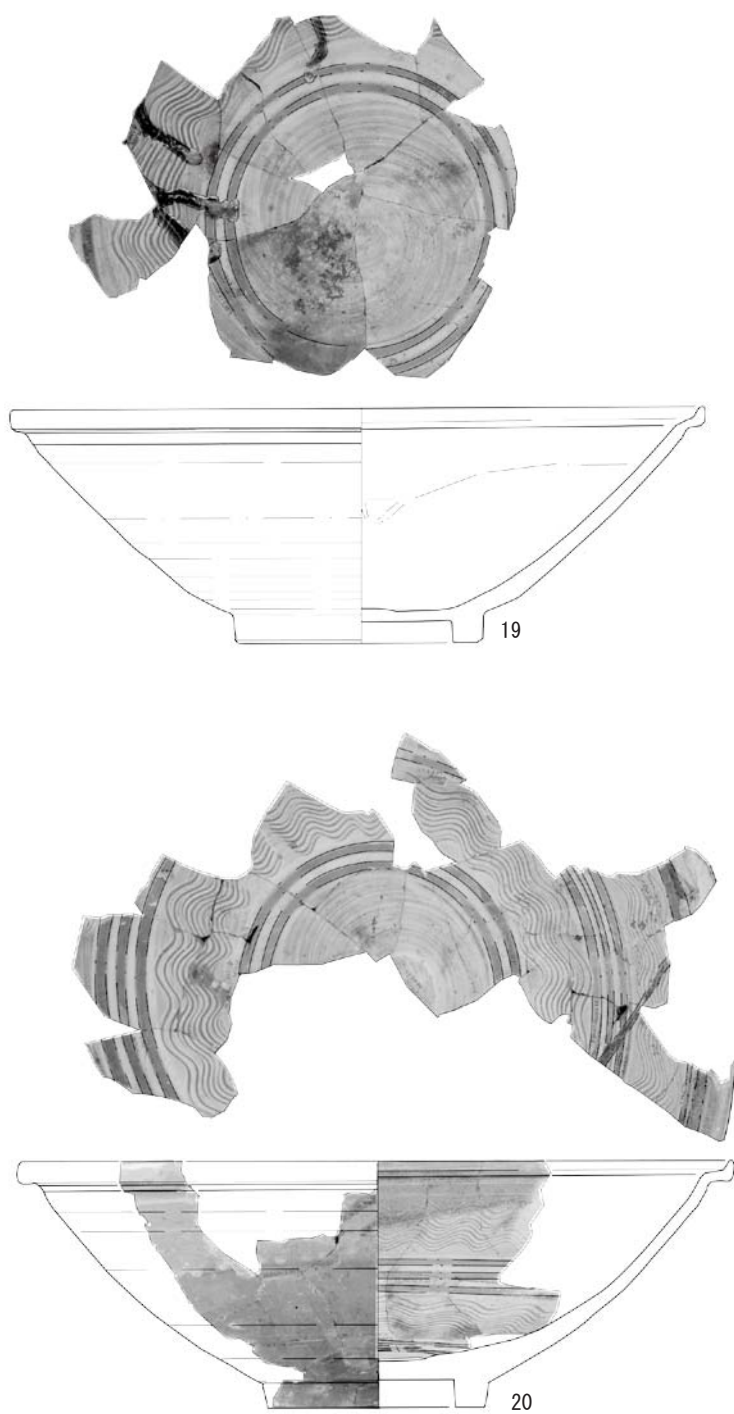


图16 出土陶磁器 (3) 土坑3

0 10  
cm

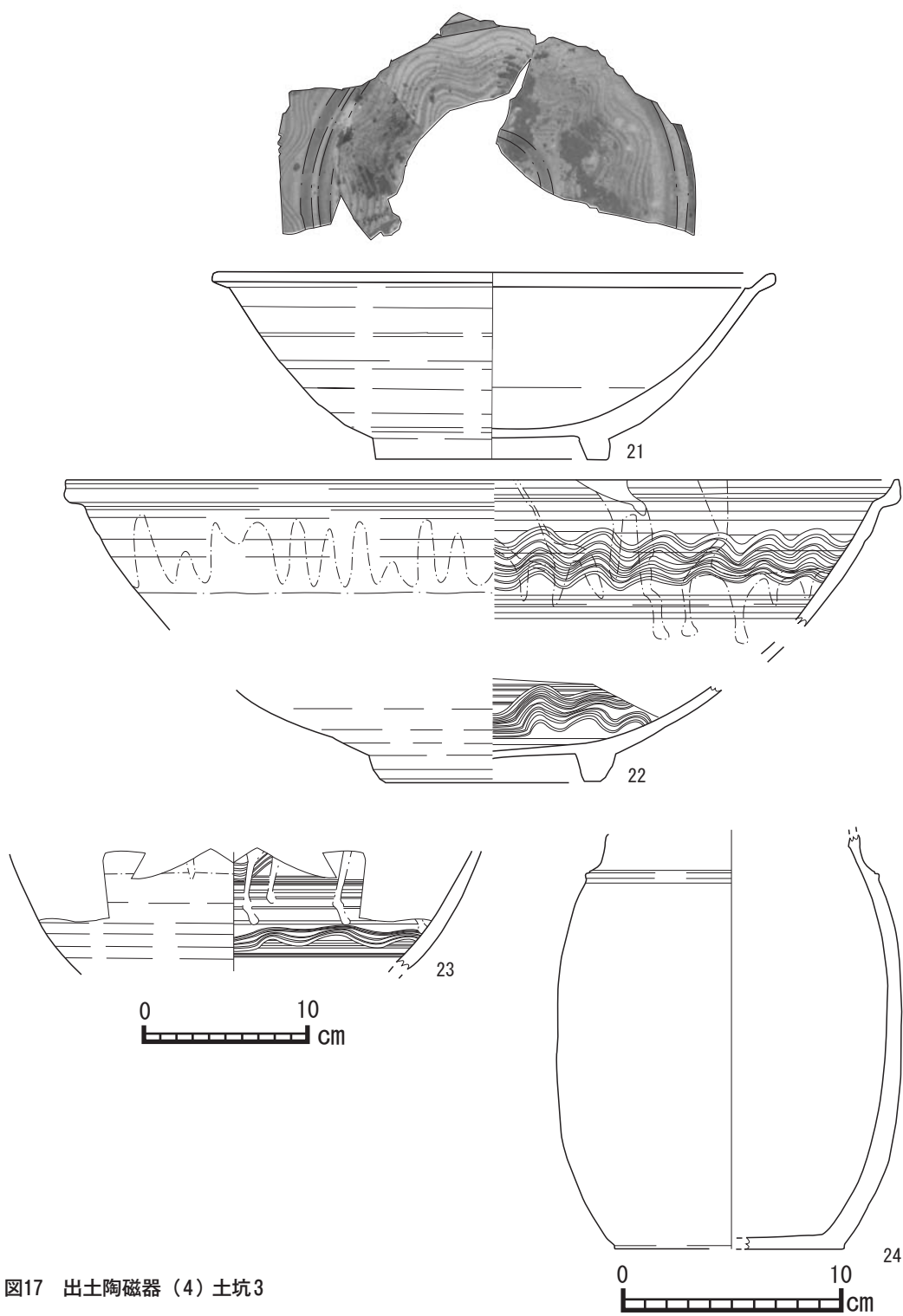


图17 出土陶磁器 (4) 土坑3

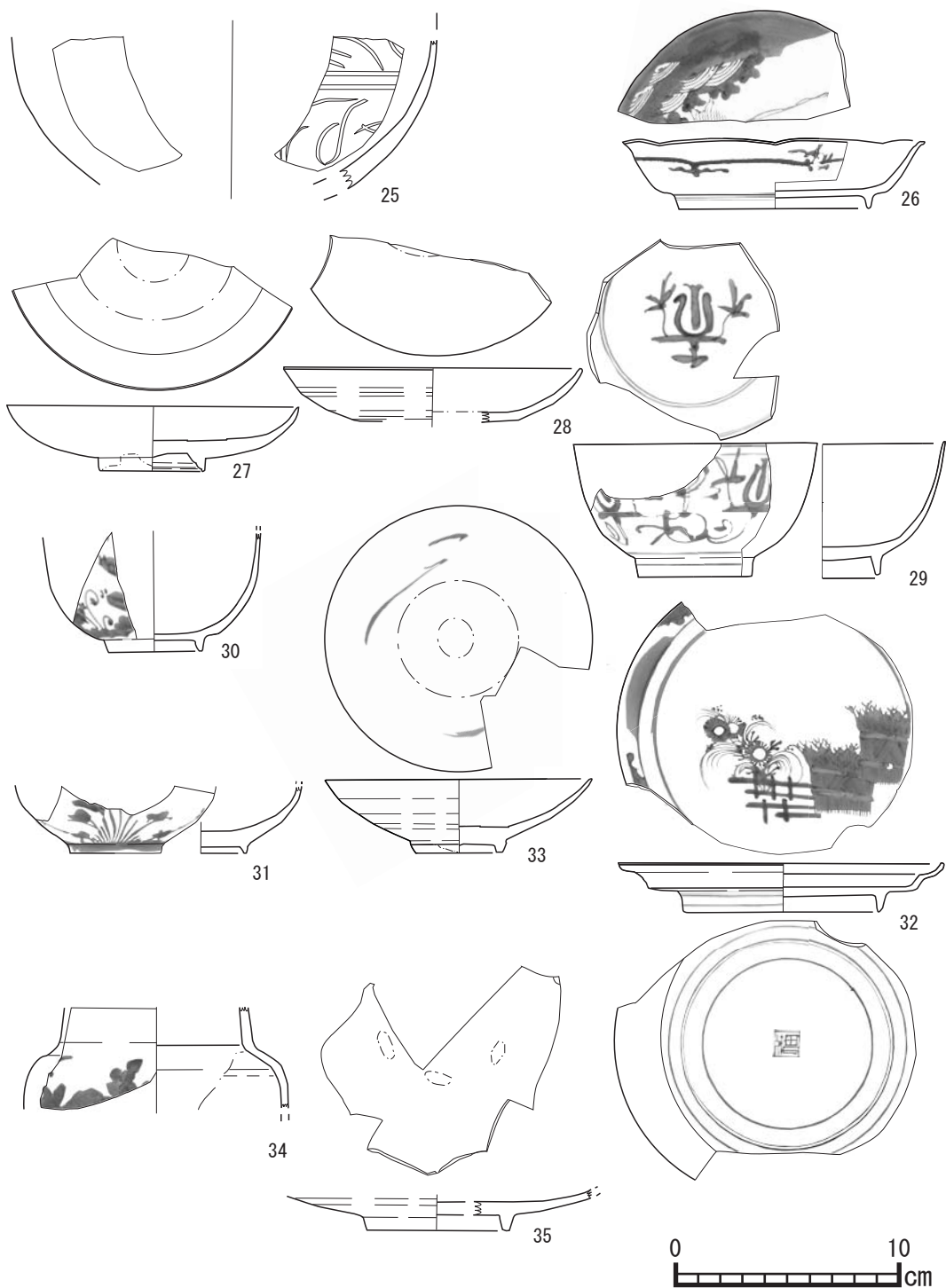


図18 出土陶磁器 (5) 土坑5・ピット22・4層



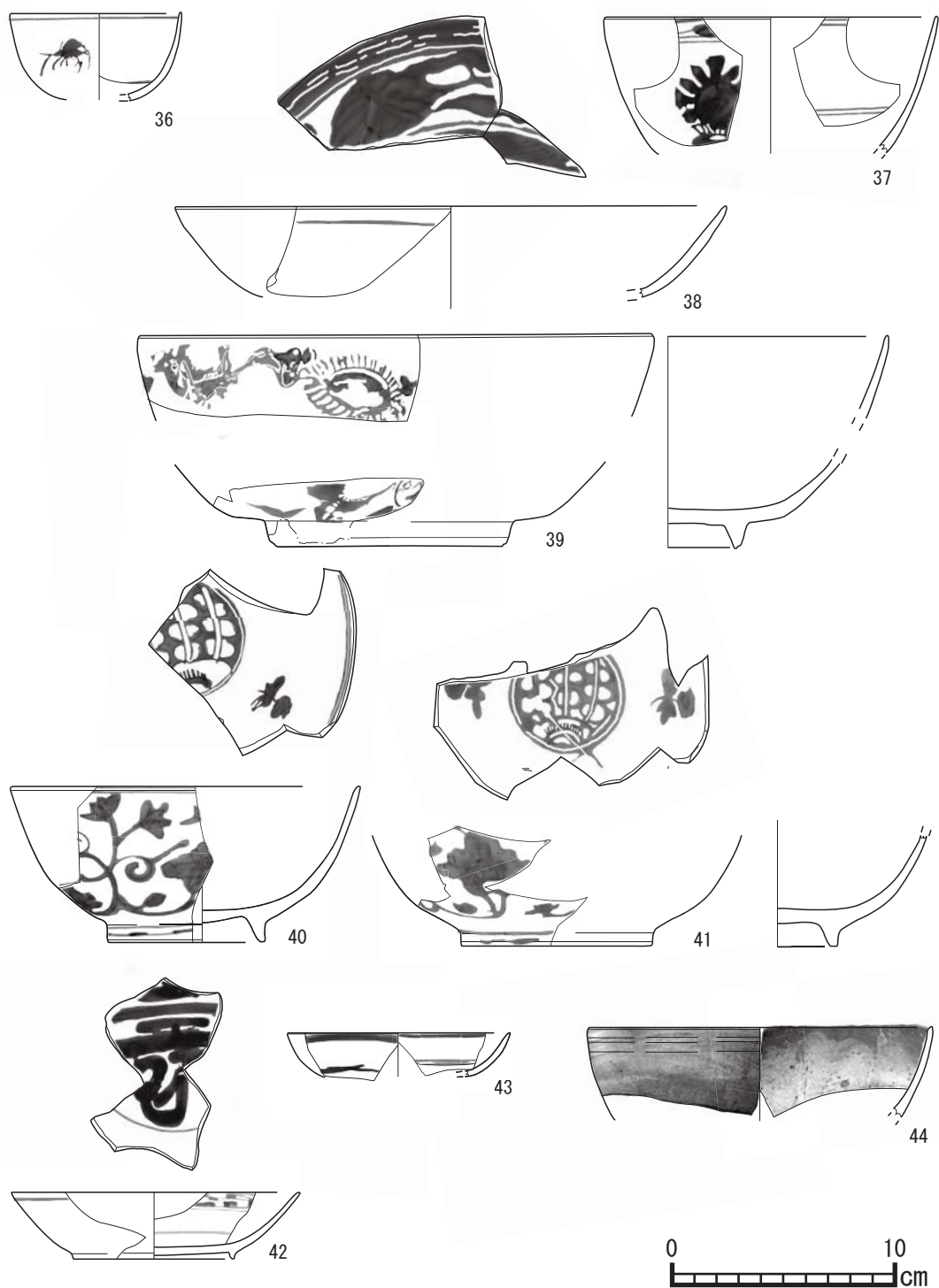


图19 出土陶磁器 (6) 土坑6·5層上面·5層

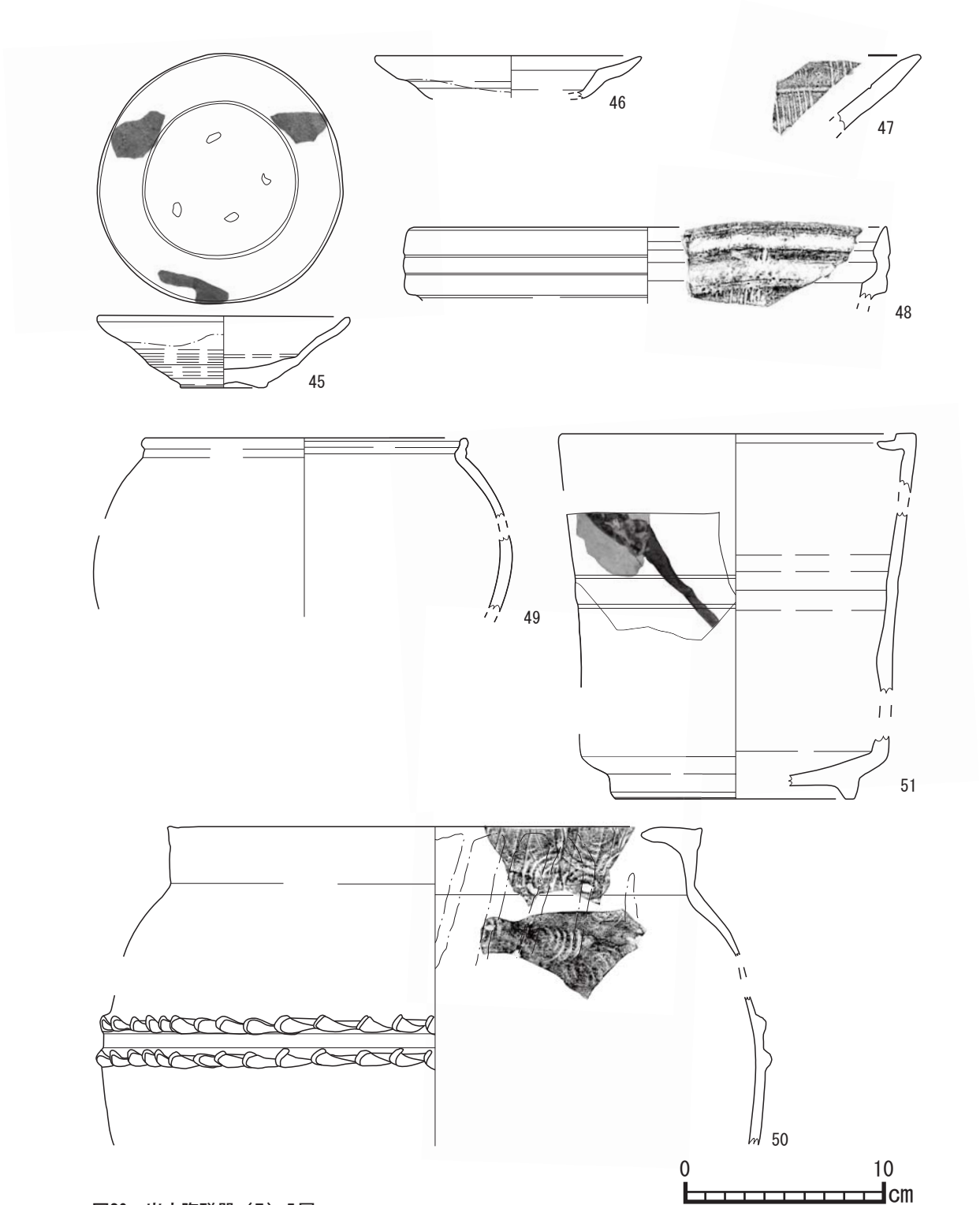


图20 出土陶磁器 (7) 5層

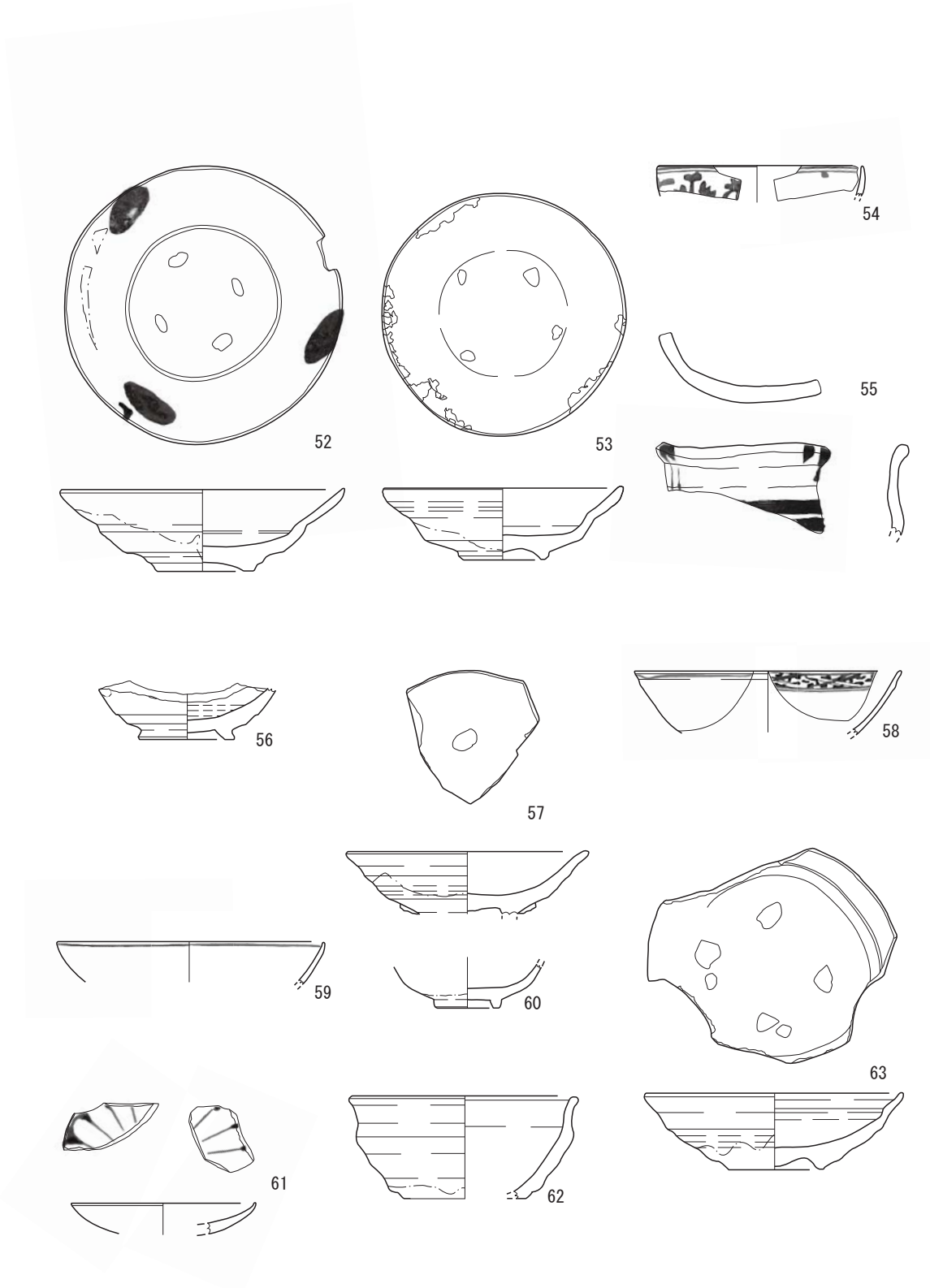


図21 出土陶磁器 (8) ビット26・6層・7層

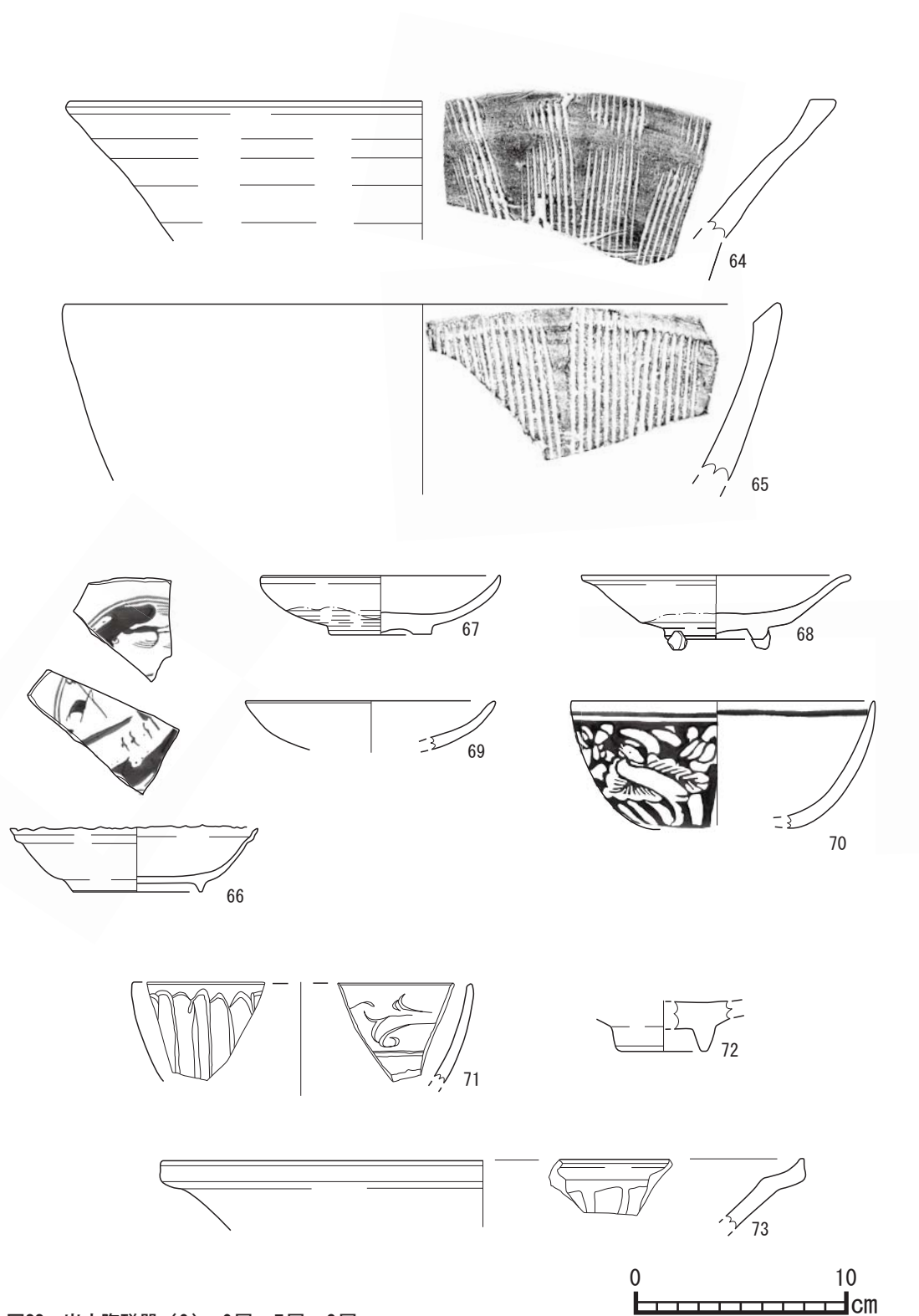


图22 出土陶磁器 (9) 6層・7層・8層

表2 福山城下町遺跡小松前町地点出土陶磁器観察表(1)

No.	器種	胎質	出土場所		法量 (cm)			装飾 (文様・銘・施釉)	技法 (成形・窯詰・焼継)	産地	年代	被熱	備考	実測図
			遺構	層位	口径	底径	器高							
1	小皿	磁器	不明		12.3	7.6	3.9	外面唐草文、内面梅花文、見込文有り	ロクロ成形、型打ち成形、輪花	肥前	18c 前～中			図 14
2	中碗	磁器	不明	1層	10.5	4.3	4.7	外面梅花文	ロクロ成形	肥前	18c 中		表土掘削時出土	図 14
3	小皿	磁器	A-1	1層	12.0	4.5	3.3	口紅、草文	輪花、型打ち成形、生掛け	肥前	17c 中			図 14
4	中皿	陶器	A-2	2層	18.0	-	-	内外面灰釉	ロクロ成形	肥前	17c 後			図 14
5	蓋物身	磁器	土坑 1	埋土 4	11.9	11.2	7.5	外面草花文	ロクロ成形	肥前	18c 前～中			図 14
6	大鉢	陶器	土坑 1	埋土 4	-	-	8.6	内外面灰釉	ロクロ成形、胎土目積み痕、高台脇に指頭痕	肥前	16c 末～17c 初	有		図 14
7	鉢	陶器	土坑 1	埋土 4	27.4	-	-	内外面鉄釉に銅緑釉、外面刷毛目文	ロクロ成形	肥前	17c 後			図 14
8	中碗	磁器	A-2	3c 層	-	4.1	-	外面梅花文	ロクロ成形	肥前	18c 前～中	有	くらわんか手	図 14
9	中碗	磁器	A-2	3c 層	16.0	-	-	色絵 (赤、金、緑)、外面梅花文、内面口縁部花唐草文	ロクロ成形	肥前	18c 前～中	有		図 14
10	小皿	磁器	土坑 2	埋土 1	-	-	2.8	菊花、折松葉	糸切り細工成形	肥前	17c 後～18c 初	有	漆継ぎ	図 14
11	大皿	磁器	土坑 2	埋土 1	28.6	-	-	外面唐草文、内面草花文	ロクロ成形	肥前	17c 後～18c 初	有		図 14
12	搦鉢	陶器	土坑 2	埋土 1	-	10.3	-		ロクロ成形、外面に指頭痕	肥前	17c 後～末			図 14
13	小碗	磁器	土坑 3	埋土 3	6.5	3.0	2.9	外面文様有り	ロクロ成形	肥前	17c 後	有		図 15
14	小皿	磁器	土坑 3	埋土 3	13.2	8.8	3.3	見込五弁花文、内面波・桜文、外面唐草文、高台銘「宣□□□」	ロクロ成形、型打ち成形、輪花	肥前	17c 後	有		図 15
15	壺	陶器	土坑 3	埋土 3	10.4	12.4	-	口縁部から胴下部にかけて鉄釉、胴下部白釉、内面口縁以外無釉	ロクロ成形	信楽	17c 中～後	有	腰白茶壺	図 15
16	中碗	陶器	土坑 3	埋土 3	10.6	-	-	内外面黒釉、外面蛸手、内面打刷毛目文	ロクロ成形	肥前	17c 末～18c 前	有	現川焼	図 15
17	蓋	陶器	土坑 3	埋土 3	10.9	-	-	内面無釉、外面灰釉	ロクロ成形	肥前	17c	有		図 15
18	大鉢	陶器	土坑 3	埋土 3	46.0	15.2	15.9	外面上半部透明釉、内面白化粧・櫛目文・銅緑釉掛け	ロクロ成形	肥前	17c 末～18c 初	有		図 15
19	大鉢	陶器	土坑 3	埋土 3	41.4	14.4	13.9	外面上半部透明釉、内面白化粧・櫛目文・銅緑釉掛け	ロクロ成形	肥前	17c 末～18c 初	有		図 16
20	大鉢	陶器	土坑 3	埋土 3	42.3	12.9	14.7	外面上半部透明釉、内面白化粧・櫛目文・銅緑釉掛け	ロクロ成形	肥前	17c 末～18c 初	有		図 16
21	大鉢	陶器	土坑 3	埋土 3	30.7	12.8	10.3	外面上半部透明釉、内面白化粧・櫛目文・透明釉・銅緑釉掛け	ロクロ成形	肥前	17c 末～18c 初	有		図 17
22	大鉢	陶器	土坑 3	埋土 3	51.4	13.0	-	外面上半部透明釉、内面白化粧・櫛目文・銅緑釉掛け	ロクロ成形	肥前	17c 末～18c 初	有	外面鉄付着	図 17
23	大鉢	陶器	土坑 3	埋土 3	-	-	-	外面上半部透明釉、内面白化粧・櫛目文・銅緑釉掛け	ロクロ成形	肥前	17c 末～18c 初	有		図 17
24	壺	陶器	土坑 3	埋土 3	-	10.5	-	無釉、焼き締め	叩き成形	肥前	17c 中～後	有		図 17
25	鉢	磁器	土坑 5	埋土 1	-	-	-	青磁、草花文カ	ロクロ成形、へら彫り	肥前	17c 中	有		図 18
26	小皿	磁器	土坑 5	埋土 1	13.6	8.6	3.0	外面唐草文、内面青海波文	輪花	肥前	17c 末～18c 初	有		図 18
27	小皿	磁器	P22	埋土 1	13.0	4.7	2.9	青磁、見込蛇の目釉剥ぎ	ロクロ成形	肥前	17c 末～18c 初	有		図 18
28	小皿	陶器	P22	埋土 1	13.4	-	-	銅緑釉、見込蛇の目釉剥ぎ	ロクロ成形	肥前	17c 末～18c 初	有		図 18
29	中碗	磁器	A-2	4層	11.2	5.1	6.0	内外面宝相華文	ロクロ成形	景德鎮	17c 前	有		図 18
30	中碗	磁器	A-2	4層	-	4.4	-	外面松文	ロクロ成形	肥前	17c 末～18c 前	有		図 18
31	大碗	磁器	A-1	4層	-	4.1	-	外面草花文	ロクロ成形	肥前	18c	有		図 18
32	中皿	磁器	B-2	4層	14.0	9.0	2.2	内面柴垣文、高台内見込「福」	ロクロ成形、ハリ支え	肥前	17c 末～18c 初	有		図 18
33	小皿	磁器	A-2	4層	12.0	3.9	3.3	蛇の目釉剥ぎ、高台内無釉、内面草花文カ	ロクロ成形	肥前	17c 末	有		図 18
34	壺	磁器	B-2	4層	8.2	-	-	外面草花文カ、内面頸部施釉・胴部無釉	ロクロ成形	肥前	17c 中～後	有		図 18
35	中皿	陶器	A-2	4層	-	6.4	-	内外面灰釉	胎土目積み痕、ロクロ成形	肥前	17c 後	有		図 18
36	小碗	磁器	土坑 6	埋土 1	7.7	-	-	昆虫文カ	ロクロ成形	景德鎮	17c 前	有		図 19
37	大碗	磁器	B-2	5層上面	-	-	-	外面文様有り、口唇部釉薬虫喰い	ロクロ成形	景德鎮	17c 前	有		図 19
38	大皿	磁器	A-2	5層上面	24.8	-	-	内面草花文	ロクロ成形	漳州	17c 前	有		図 19
39	色絵大碗	磁器	B-2	5層	19.0	6.2	-	色絵 (赤、黒、緑)、外面草花文	ロクロ成形	景德鎮	17c 前	有	呉須赤絵	図 19
40	大碗	磁器	B-1	5層	14.0	5.6	14.0	外面宝相華文、内面草花文	ロクロ成形	景德鎮	17 c 前	有		図 19



表3 福山城下町遺跡小松前町地点出土陶磁器観察表(2)

No.	器種	胎質	出土場所		法量 (cm)			装飾 (文様・銘・施釉)	技法 (成形・窯詰・焼継)	産地	年代	被熱	備考	実測図
			遺構	層位	口径	底径	器高							
41	大碗	磁器	A-1	5層	-	5.4	-	外面宝相華文、内面草花文	ロクロ成形	景德鎮	17c前	有		図19
42	小皿	磁器	A-2	5層	13.0	7.2	3.0	見込「寿」、内面口縁部、四方襷のくずしカ	ロクロ成形	景德鎮	17c前	有		図19
43	小皿	磁器	A-1	5層	10.0	-	-	内外面染付有り	ロクロ成形	漳州	17c前	有		図19
44	大碗	陶器	B-2	5層	15.4	-	-	外面巻刷毛目、内面打刷毛目・灰釉	ロクロ成形	肥前	17c中	有		図19
45	小皿	陶器	B	5層	12.7	4.0	3.6	見込鉄絵、内面外面口縁部回釉、外面胴下部無釉	ロクロ成形、見込胎土目積み痕	肥前	16c末~17c初	有		図20
46	小皿	陶器	A-1	5層	13.6	-	-	内面・外面・口縁部銅緑釉、胴部無釉	ロクロ成形	瀬戸・美濃	17c初		織部	図20
47	搦鉢	陶器	B	5層	-	-	-	無釉、焼き締め	ロクロ成形	越前	16c末~17c初			図20
48	搦鉢	陶器	A-2	5層	24.0	-	-	無釉	ロクロ成形	備前	17c前			図20
49	壺	陶器	B-2	5層	16.0	-	-	内外面灰釉	叩き成形	肥前	16c末~17c初	有		図20
50	甕	陶器	B-2	5層	-	27.0	-	外面鉄釉、胴上部に縄状の突体	叩き成形	肥前	16c末~17c初	有		図20
51	水指	陶器	B-2	5層	-	12.0	-	内面無釉、胴部に一部銅緑釉	ロクロ成形	肥前	16c末~17c初	有	胴部鉄付着	図20
52	小皿	陶器	P26	埋土1	13.9	4.4	4.0	鉄絵、内外面灰釉、外面一部無釉	胎土目積み痕4箇所	肥前	16c末~17c初		地鎮遺構上の皿、燈明皿の転用	図21
53	小皿	陶器	P26	埋土1	11.6	4.0	3.5	内外面灰釉、外面胴下部無釉	胎土目積み痕4箇所	肥前	16c末~17c初		地鎮遺構下の皿、燈明皿の転用	図21
54	中碗	磁器	A-1	6層	-	-	-	外面宝相華文	ロクロ成形	景德鎮	17c前			図21
55	沓茶碗	陶器	B-2	6層	-	-	-	内外面灰釉、外面鉄釉で装飾有り	ロクロ成形	肥前	16c末~17c初			図21
56	中碗	陶器	B-1	6層	-	4.6	-	外面胴下部無釉、内面鉄釉	ロクロ成形	肥前	16c末~17c初			図21
57	小皿	陶器	B-1	6層	11.7	4.5	3.1	内外面灰釉、外面胴下部無釉	ロクロ成形、胎土目積み痕	肥前	16c末~17c初			図21
58	小皿	磁器	A-2	7層	13.0	-	-	外面口縁部圏線、内面四方襷、口唇部薬虫喰い	ロクロ成形	景德鎮	17c前			図21
59	小皿	磁器	A-2	7層	13.0	-	-	内外口縁部圏線、口唇部虫喰い	ロクロ成形	景德鎮	17c前			図21
60	小皿	磁器	B-2	7層	-	3.0	-	白磁、内外面透明釉、胴下部無釉	ロクロ成形	中国	16c末~17c前			図21
61	小皿	磁器	B-2	7層	-	-	-	内面菊花文	ロクロ成形	肥前	1630~40年代			図21
62	天目碗	陶器	A-2	7層	11.0	6.0	5.0	内外面鉄釉、胴下部無釉	ロクロ成形	瀬戸・美濃	16c末		大窯4後半	図21
63	小皿	陶器	A-2	7層	12.5	4.4	3.7	内外面灰釉、外面胴下部無釉	ロクロ成形、胎土目積み痕4箇所	肥前	16c末~17c初			図21
64	搦鉢	陶器	B-2	7層	16.8	-	-	焼き締め	ロクロ成形	越前	16c末~17c初			図22
65	搦鉢	陶器	A-2	7層	34.0	-	-	焼き締め	ロクロ成形	越前	16c末~17c初			図22
66	小皿	磁器	A-1	8層	-	6.0	-	見込山水文カ	ロクロ成形	景德鎮	17c前			図22
67	小皿	陶器	B-2	8層	11.3	4.8	2.8	内外面灰釉、外面胴下部無釉	ロクロ成形	肥前	16c末~17c初			図22
68	小皿	陶器	B-2	8層	12.7	4.5	3.0	内外面灰釉、外面胴下部無釉	ロクロ成形、胎土目積み痕	肥前	16c末~17c初			図22
69	小皿	陶器	A-1	8層	11.8	-	-	内外面長石釉	ロクロ成形	瀬戸・美濃	16c末~17c初		志野	図22
70	大碗	磁器	A-2	8層上	14.4	-	-	内外口縁部圏線、外面草花文	ロクロ成形	景德鎮	17c前			図22
71	大碗	磁器	A-1	6層	14.0	-	-	剣先蓮弁文、青磁	ロクロ成形	中国	15c			図22
72	大碗	磁器	A-2	6層	-	-	-	青磁	ロクロ成形	中国	15c			図22
73	盤	磁器	A-2	7層	30.4	-	-	青磁	ロクロ成形	中国	15c			図22

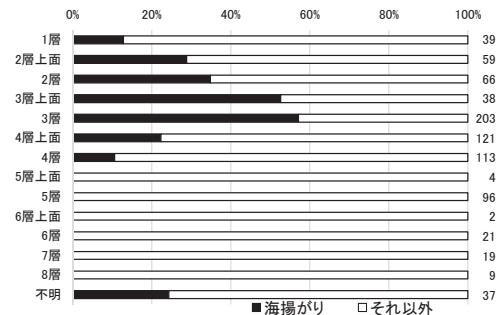
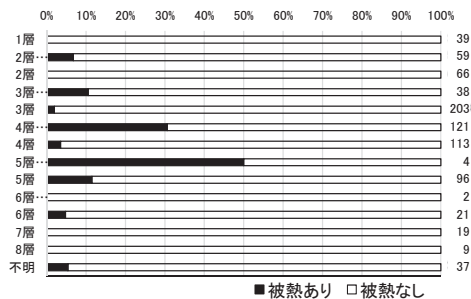


図23 陶磁器の被熱率

図24 海揚がり陶磁器の比率

表4 福山城下町遺跡小松前町地点出土陶磁器の器種別・層位別点数

器種組成 (口縁部)	碗	皿					小杯	瓶	大鉢	鉢	壺	壺	壺	搦鉢	その他	不明	層 合計
		大	中	小	不明	合計											
1層	5	0	1	3	1	5	1	0	0	0	0	0	0	1	0	12	
2層上面遺構	4	0	0	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	1	1	9	
2層	6	0	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	10	
3層上面遺構	1	0	0	3	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	5	
3層	16	0	1	9	0	10	2	0	1	0	0	0	0	1	2	20	
4層上面の遺構	12	0	2	3	6	11	0	0	8	0	0	0	0	1	1	2	
4層	18	0	2	11	0	13	0	0	0	0	0	0	0	2	2	35	
5層上面の遺構	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
5層	23	1	0	10	0	11	0	0	0	0	1	1	0	2	1	39	
6層上面の遺構	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
6層	3	0	0	3	2	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	9	
7層	3	0	0	6	1	7	0	0	0	0	0	0	0	2	0	12	
8層	2	0	0	3	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	
層位不明	6	0	0	3	4	7	1	0	0	0	0	0	0	1	1	16	
合計	102	1	6	60	16	83	5	0	11	1	1	1	0	7	10	246	

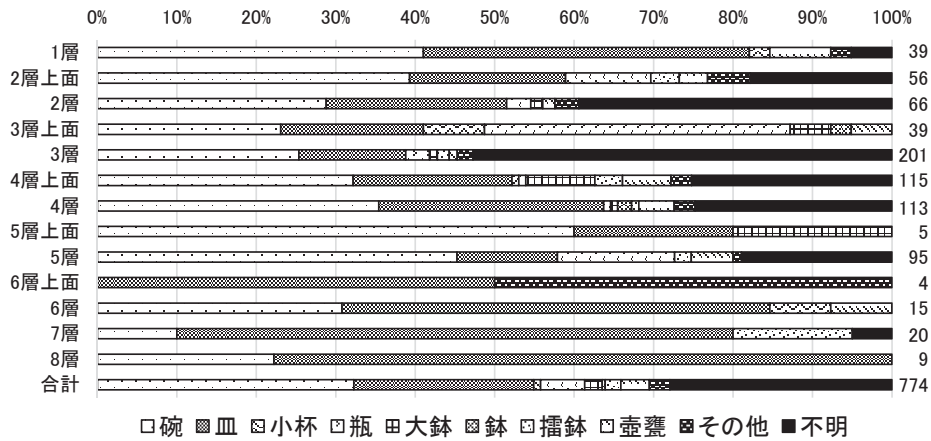


図25 出土陶磁器の器種別組成の変遷

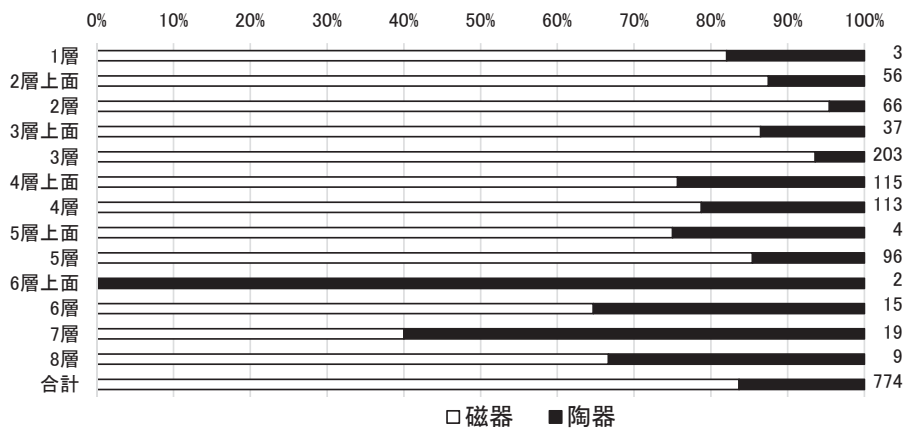


図26 出土陶磁器の磁器・陶器の比率の変遷

表5 福山城下町遺跡小松前地点出土陶磁器の産地別・層位別点数

産地別組成 (全破片)	磁器						陶器					層合計
	中国			肥前	肥前	瀬戸美濃	越前	備前	信楽	不明		
	景德鎮	漳州窯	その他									
1層	2	0	0	30	5	0	1	0	0	1	39	
2層上面	1	0	0	48	7	0	0	0	0	0	56	
2層	0	0	0	63	3	0	0	0	0	0	66	
3層上面	1	0	0	31	5	0	0	0	0	0	37	
3層	0	0	0	190	10	0	0	0	0	3	203	
4層上面	15	0	0	72	27	0	0	0	1	0	115	
4層	15	0	0	74	24	0	0	0	0	0	113	
5層上面	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	4	
5層	63	2	0	17	8	2	3	1	0	0	96	
6層上面	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	
6層	9	0	0	0	6	0	0	0	0	0	15	
7層	5	0	1	1	9	2	0	0	0	1	19	
8層	6	0	0	0	2	1	0	0	0	0	9	
層位不明	0	0	0	29	8	0	0	0	0	0	37	
合計	117	2	1	558	117	5	4	1	1	5	811	

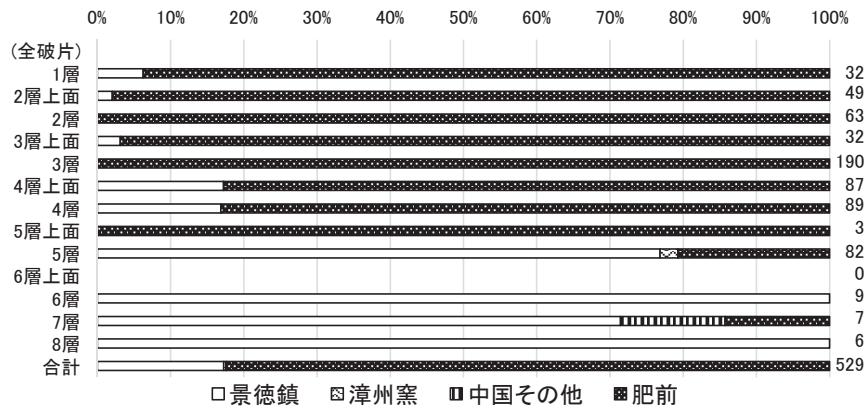


図27 福山城下町遺跡小松前町地点 磁器産地組成

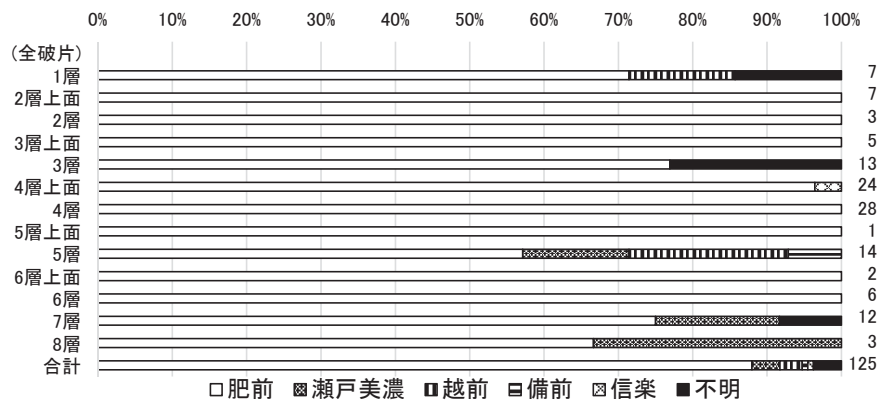


図28 福山城下町遺跡小松前町地点 陶器産地組成

4層中出土の陶磁器は、17世紀後半の肥前陶磁が主体を占める（29～35）。5層以下から出土した陶磁器は、景德鎮の磁器と肥前産陶器（唐津焼）が主体を占め、他に織部の折縁小皿（46）・大窯4後半期の天目茶碗（62）・志野小皿（69）などの瀬戸・美濃製品、越前焼の播鉢（47・64・65）、備前焼の播鉢（48）がある。

客土を含む6・7層中には、15世紀代の中国産青磁（71～73）が混入していた。これらは松前大館に関連する遺物と考えられる。

#### **(2) 土師質土器・瓦（図29、表6）**

土師質の焜炉類が、享保年間の火災に伴う廃棄土坑である土抗2から1点（1）、同じく土抗3からは5個体（3～7）以上出土した。土抗3からは焙烙（2）、七輪のサナ（8）、丸瓦（10）も出土している。17世紀前半期の盛土層である5層からは手づくねのカワラケ（9）が1点出土している。

#### **(3) 石製品（図30、表7）**

ヒデ鉢の可能性のある凝灰岩製の大型石製品（1）が5層から出土した。3c層から出土した泥岩製の硯（2）には陸の部分に放射状の線刻が認められる。4層からは泥岩性の基石（3）が1点出土した。

#### **(4) 金属製品（図30・31、表8）**

キセル（1～11）・小柄（12）・銅製銚子（17）・真鍮製容器蓋（19）・銅製容器・熔銅塊・銭（21～29）・銅釘（20）・鉄釘（31）などが出土した。キセルは出土層位や形態からみていずれも18世紀以降のものである。享保年間の火災に伴う廃棄土坑である土抗3から出土した小柄には笹竹文の線刻が施されている。溶けた銅の塊は、4層上面の享保の火災や5層上面の17世紀第2四半期の発生した火災に伴うものである。銭は4層より上層から出土したものはすべて寛永通寶（21～24・26）であるのに対して、6層からは北宋銭の元祐通寶（27）とリング銭が出土した。

#### **(5) 骨角製品（図31）**

近世初頭の盛土層である5層から鹿角製の中柄が1点出土した。なお、平成18年度に道道松前線改良工事に伴う発掘調査の際にも、本調査区の東側に隣接するCブロック（図1参照）からシカの中手中足骨製の骨鏝が1点発見されている（松前町教育委員会2008）。

#### **(6) 土器（図31、表9）**

近世初期の盛土層である5～7層から後期中葉～後葉と晩期末葉の縄文土器、弥生中期中葉の鉢形土器が出土した。これらのなかでは後期中葉の土器が最も多い。これらの土器は福山城が位置する山側の段丘面からもたらされた客土に含まれていたと考えられる。

#### **(7) 石器（図31、表10）**

近世初期の盛土層である6層から頁岩製の石筥、表土から頁岩製の縦型石匙が各1点出土した。

#### **(8) 動物遺存体**

4層上面の土抗2・3・5、5層上面の土抗6、4～7層中から動物遺存体が出土した。貝類はハマグリが最も多く、ベッコウガサがこれに次ぎ、他にサザエ・ホタテガイ・エゾタマキガイがあ

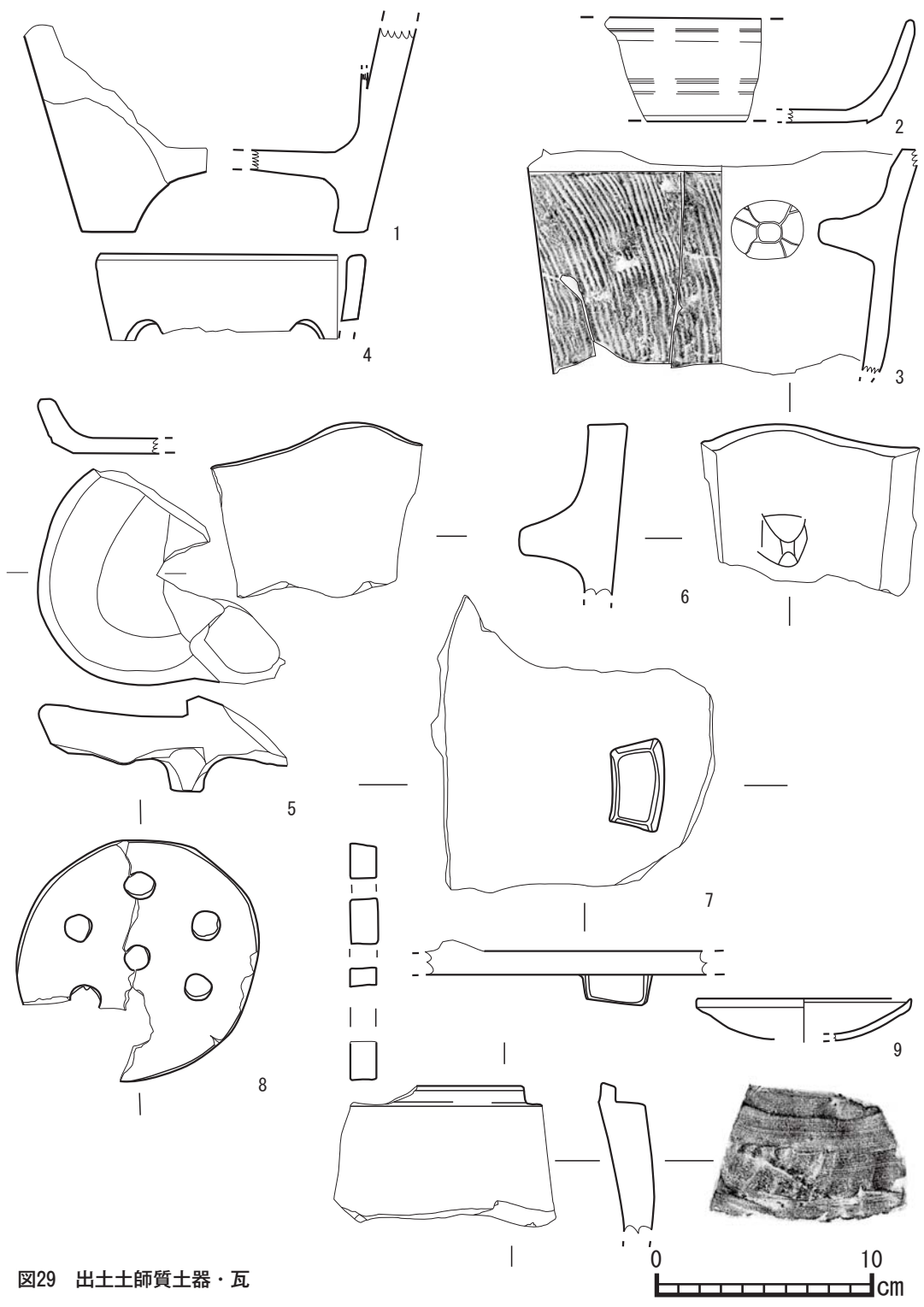


图29 出土土師質土器・瓦



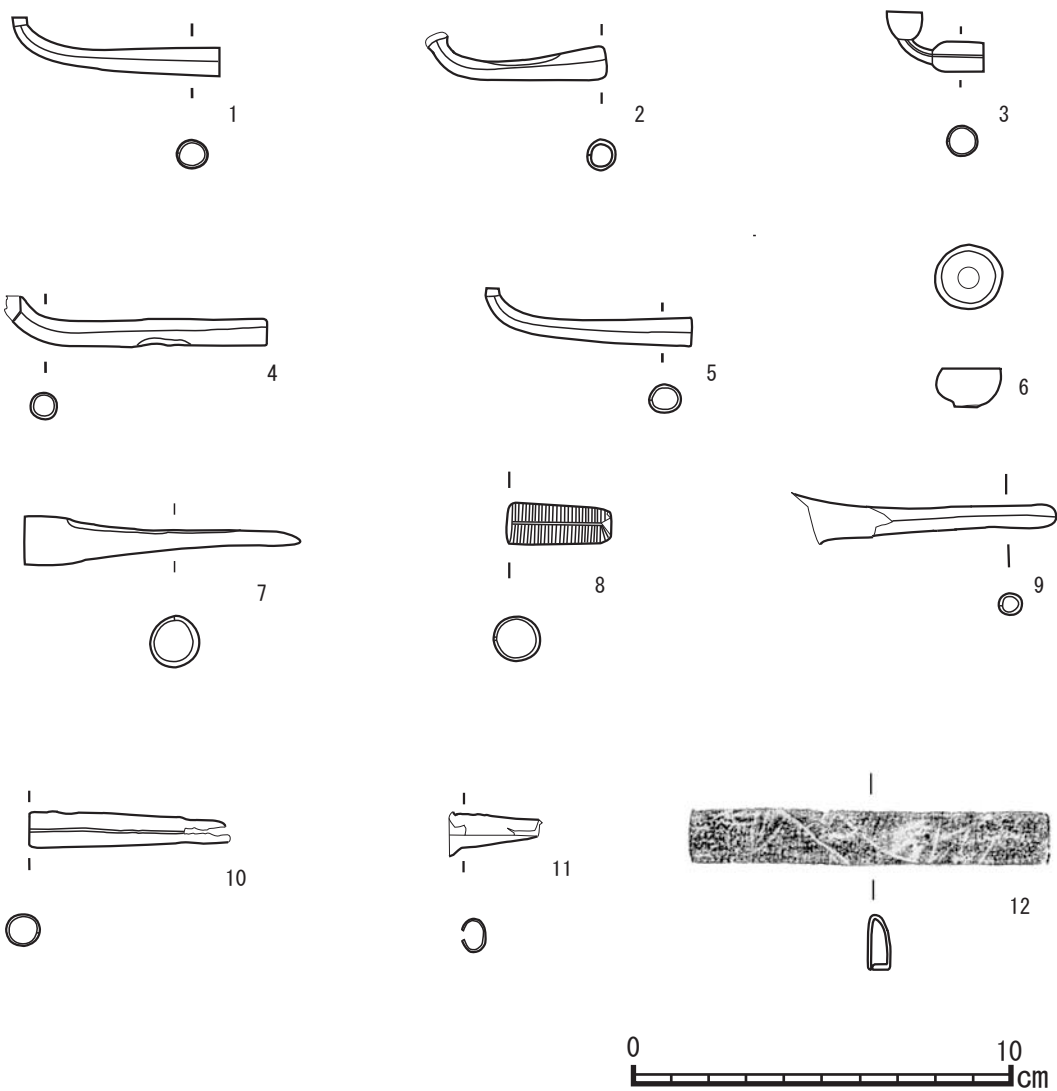
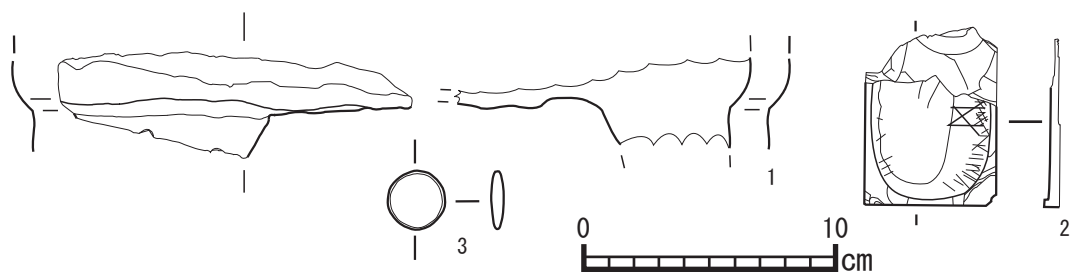


图30 出土石製品・金属製品 (1)

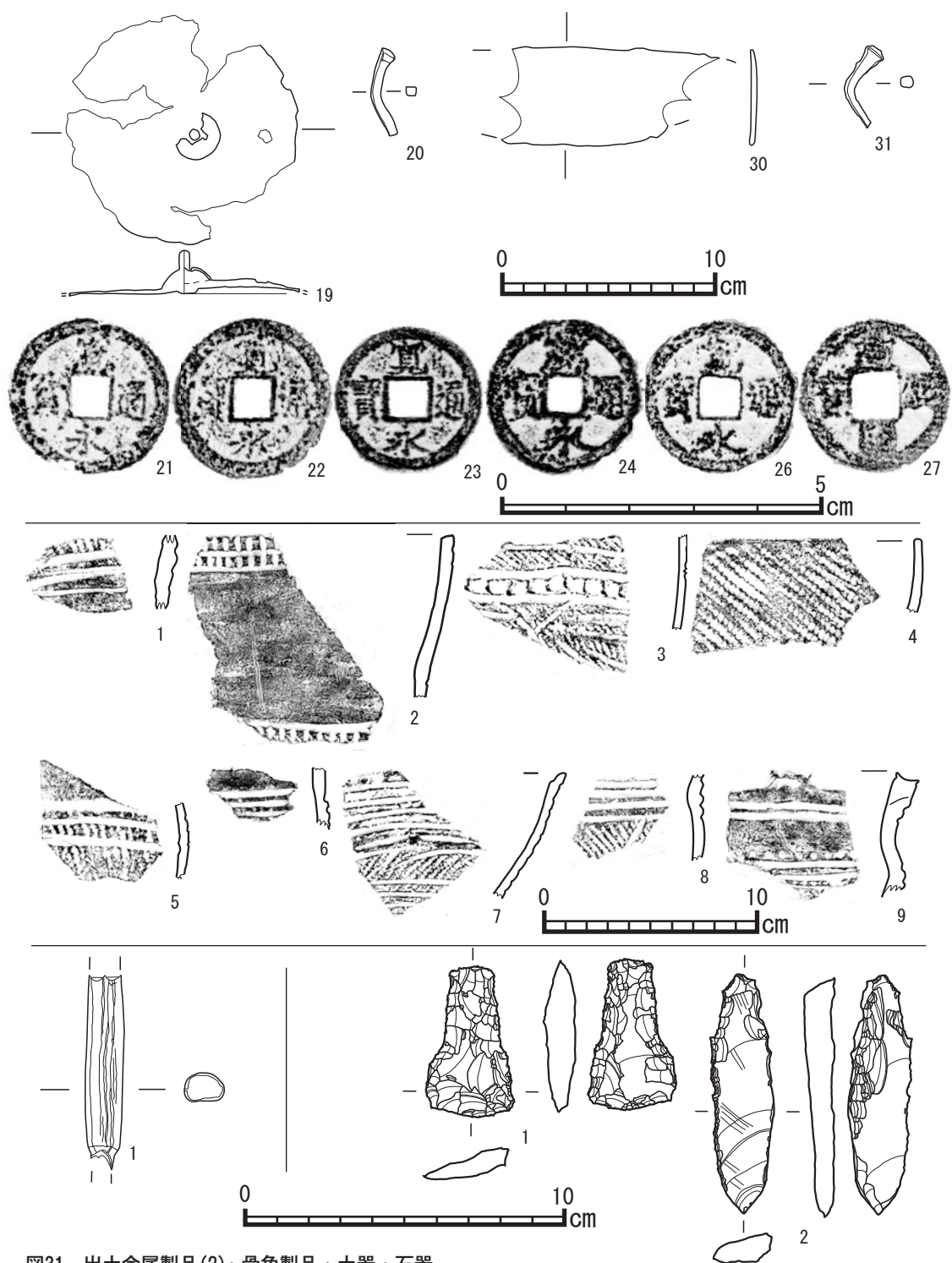


图31 出土金属製品(2)・骨角製品・土器・石器

表6 福山城下町遺跡小松前町地点 出土土師質土器・瓦観察表

No.	器種	胎質	出土場所		法量 (cm)			調整・装飾	成形技法	年代	被熱	備考	実測図
			区・遺構	層位	口径	底径	器高						
1	焜炉・火鉢	土師質土器	土坑2	埋土1	—	—	(9.7)		板作り成形	18c前	有	有脚	図29
2	焜炉	土師質土器	土坑3	埋土3	—	—	4.8		ロクロ成形	18c前	有		図29
3	焜炉・火鉢	土師質土器	土坑3	埋土3	18.2	—	(10.5)	外面刷毛目	ロクロ成形	18c前	有		図29
4	焜炉・火鉢	土師質土器	土坑3	埋土3	12.2	—	(4.2)	胴部に丸穴	ロクロ成形	18c前	有		図29
5	焜炉・火鉢	土師質土器	土坑3	埋土3	—	—	4.5		手びねり成形カ	18c前	有	開口部	図29
6	焜炉・火鉢	土師質土器	土坑3	埋土3	—	—	(7.9)		ロクロ成形	18c前	有		図29
7	焜炉・火鉢	土師質土器	土坑3	埋土3	—	—	2.5		板作り成形	18c前	有	有脚	図29
8	七輪・サナ	土師質土器	土坑3	埋土3	11.5	—	1.3		型押し成形カ	18c前	有	7穴	図29
9	皿	土師質土器	B-2	6層	10.0	—	—		手づくね成形	17c初		内面ナデ	図29
10	丸瓦	瓦	土坑3	埋土3	—	—	(6.9)			18c前			図29

表7 福山城下町遺跡小松前町地点 出土石製品観察表

No.	出土場所		種類	石材	法量 (cm)			備考	実測図
	遺構	層位			長さ	幅	厚さ		
1	A-1	5層	ひで鉢カ	凝灰岩	31.2	—	(4.8)		図30
2	A-1	3c層	硯	泥岩	(10.0)	7.5	0.5	放射状の線刻有り	図30
3	B-2	4層	基石	泥岩	2.2	—	0.6		図30

表8 福山城下町遺跡小松前町地点 出土金属製品観察表

No.	種類	出土場所		法量 (mm)			重量 (g)	材質	備考	実測図
		区・遺構	層位	長さ(直径)	高さ(厚)	厚さ(孔径)				
1	雁首	A-2	1層	(66)	(10)	10	(6.6)	真鍮		図30
2	雁首	A-2	1層	(48)	(14)	10	(4.2)	真鍮		図30
3	雁首	A-2	2層上	38	21	11	7.9	真鍮		図30
4	雁首	A-2	3c層	(68)	(10)	9	(6.0)	真鍮		図30
5	雁首	A-2	4層上	(69)	(14)	10	(8.2)	真鍮		図30
6	雁首	B-1	土坑3	(16)	(10)	—	(3.7)	真鍮		図30
7	吸口	不明	不明	73	13	13	4.1	真鍮		図30
8	吸口	B-1	Pit7	(19)	9	9	(1.2)	真鍮		図30
9	吸口	A-2	2a層	(46)	(8)	(8)	(1.9)	真鍮		図30
10	吸口	A-1	3c層	(52)	18	18	(3.0)	真鍮		図30
11	吸口	B-1	土坑3	(23)	(7)	(7)	(0.9)	真鍮		図30
12	小柄	A-1	土坑3	96	13	5	19.2	真鍮	笹竹文	図30
13	熔銅塊	A-1	Pit4	29	19	24	17.6	銅		—
14	銚子	A-1	4層上	—	—	—	(81.58)	銅	被熱溶解	—
15	熔銅塊	A-1	4層上	47	39	9	23.7	銅		—
16	熔銅塊	B-1	土坑3	65	11	9	18.4	銅		—
17	容器	A-2	5層上	—	—	—	(44.0)	銅	被熱溶解 鉛の含有量が多い	—
18	熔銅塊	B-2	5層	46	20	8	49.5	銅		—
19	容器蓋	A-2	5層上面	—	2	—	43.0	真鍮		図31
20	釘	土坑2	—	40	8.3	6.7	7.0	銅		図31
21	寛永通寶	A-2	2層上	25	0.7	5.3	3.2	青銅	新寛永(文銭)	図31
22	寛永通寶	B-1	3c層	25	1.4	6.5	3.6	青銅	新寛永	図31
23	寛永通寶	A-2	4層上	23	1.4	6.5	2.8	青銅	新寛永	図31
24	寛永通寶	B-2	4層上	24	1.4	5.2	3.5	青銅	古寛永	図31
25	銭	B-1	土坑3	23	1.6	6.1	2.0	青銅	被熱のため銭名不明	—
26	寛永通寶	A-2	4層	24	1.3	6.1	3.1	青銅	古寛永	図31
27	元祐通寶	A-1	6層	24	1.2	5.7	2.1	青銅	篆書	図31
28	リウゲ銭	A-1	6層	16	1.3	6.6	0.6	銅		—
29	銭	B-2	7層	23	1.6	6.7	(1.6)	青銅	銭名不明	—
30	甲冑部品?	土坑1	埋4層	(102)	44	4	(41.0)	鉄		図31
31	釘	土坑2	—	36	9	7	3.0	鉄		図31

表9 福山城下町遺跡小松前町地点 出土土器観察表

No.	器種	出土場所		時期	型式	文様	器面調整		備考	実測図
		区	層位				外面	内面		
1	深鉢	不明	不明	縄文後期後葉~末葉		RL 縄文→平行沈線	ナデ	ヨコナデ	排土中	図31
2	深鉢	A-2	5層	縄文後期中葉	鯉淵B式	刻目帯(口縁部・胴部括れ部)	ミガキ	ヨコナデ→ヨコミガキ		図31
3	深鉢	A-1	5層	縄文後期末葉	御殿山式(古)	RL 縄文→平行沈線・刺突列→木葉状入組文?	ミガキ	ヨコナデ→ナデ	外面炭化物付着	図31
4	深鉢	A-1	6層	縄文後期末~晚期前葉		RL 縄文	ナデ	ヨコナデ→ヨコミガキ		図31
5	深鉢	A-1	6層	縄文後期中葉	手稻C式	RL 縄文→平行沈線	ミガキ	ヨコナデ→ヨコミガキ		図31
6	深鉢	B-1	6層	縄文後期中葉	手稻C式	縄文→平行沈線	ミガキ	ヨコナデ→ヨコミガキ		図31
7	深鉢	A-1	6層	縄文後期後葉	堂林式	平行沈線 RL 縄文→斜行平行沈線	ミガキ	ヨコナデ→ヨコミガキ	内面炭化物付着	図31
8	鉢	A-1	6層	縄文晩期末葉		LR 縄文→平行沈線・貼瘤・入組弧線文	ナデ	ナデ		図31
9	鉢	A-2	7層	弥生中期中葉		縄文→平行沈線・円形刺突列	ナデ	ナデ		図31

表10 福山城下町遺跡小松前町地点 出土石器観察表

No.	器種	出土場所		法量 (mm)			重量 (g)	石材	実測図
		区	層位	長さ	幅	厚さ			
1	石筥	A-1	6層	47	28	6.8	11.9	頁岩	図31
2	石匙	A-2	1層	75	21	9.5	13.4	頁岩	図31

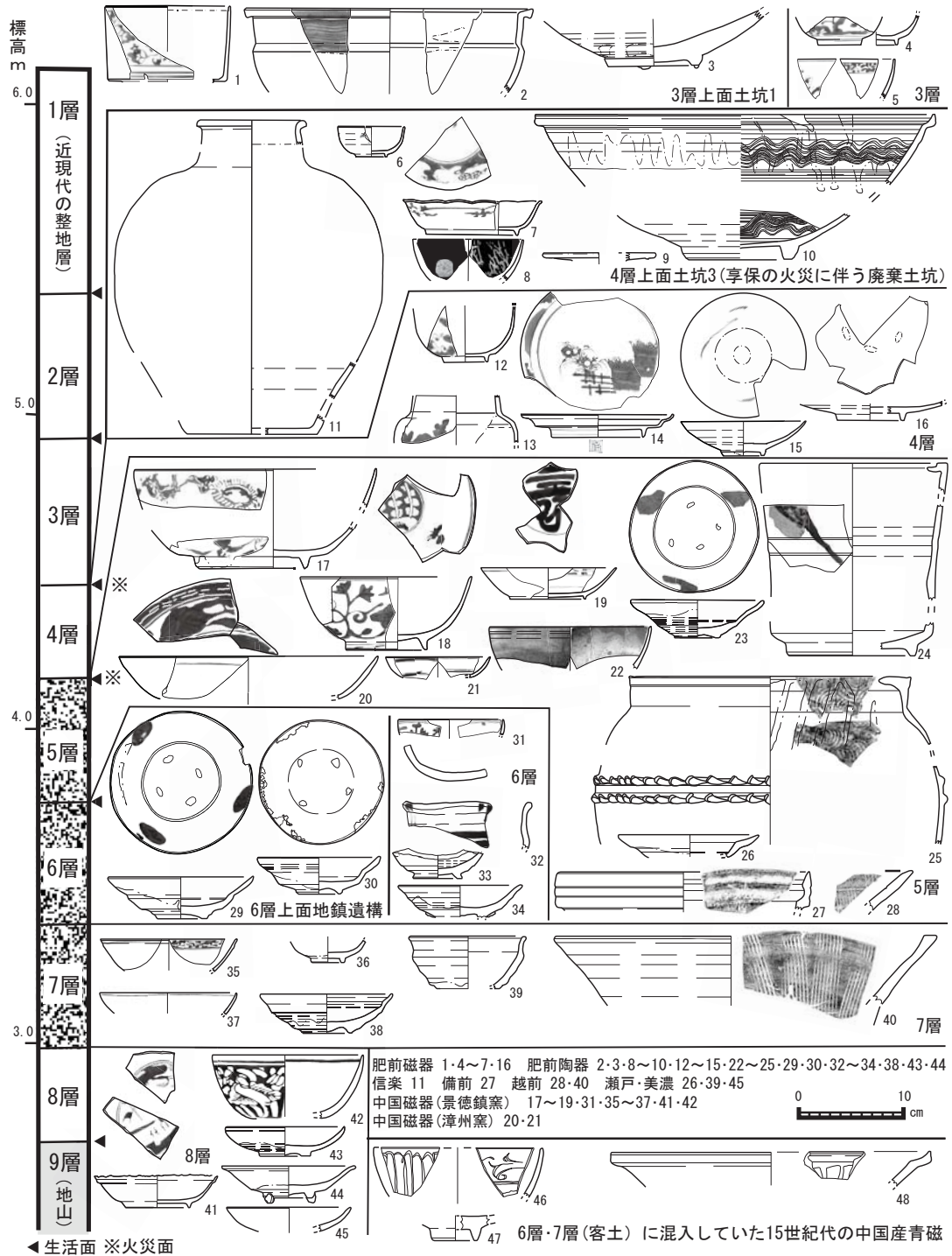


図32 北海道松前町福山城下町遺跡小松前町地点の基本層序と主な出土陶磁器

る。魚類はニシン科とタイ科が確認された。哺乳類はイヌ・エゾシカ・ネズミ科が出土した（以上、植月学氏のご教示による）。

## 5. まとめ

本調査地点は、福山城の南側、城と海岸との間に位置し、城下町を東西に貫く街道に面した町屋にあたる。今回の発掘調査により、この場所が福山館の築城に併行して慶長期から城下町として整備され、整地・盛土を繰り返しながら、幕末まで利用されていたことが確認された（図32）。

本調査で得られた主な知見は以下の通りである。

① 調査区内からは柱穴は検出されたものの、明確な建物跡は確認されていない。「松前屏風」ではこの付近の町屋は、通りに面した場所（北側）に店舗が建てられ、店舗と海岸の間には中庭的な空き地が広がっている。今回の調査区はそうした空き地に相当し、店舗建物は調査区の北側、城下町通りの歩道部分に位置すると考えられる。

② 上から3番目の生活面（4層上面）で確認された火災は、被災した陶磁器から18世紀前葉頃と考えられる。該当しそうな火災としては、湯殿沢町から出火し侍屋敷51軒・民家223軒を焼いた享保4年（1719）の大火（「松前年々記」と、民家14戸を焼いた享保14年（1729）の小松前町の火災（「福山秘府」年歴之六）がある（表1参照）。この二つの火災は10年の差しかないため、出土遺物からは、どちらの火災なのかは判断できないが、いずれにせよ享保年間の火災と断定してよいであろう。今後、城下町の調査を積み重ねていく中で同様の火災層を確認し、その範囲を把握することで、将来、どちらの火災なのかを判明することが期待される。

③ 4層上面で発見された火災の後片付けのための穴（土坑3）からは、刷毛目文に緑色銅釉と茶褐色の鉄飴釉を流し掛けした「緑褐釉刷毛目文大鉢」（佐賀県立九州陶磁文化館2018）がまとめて発見された。17世紀後半から18世紀初め頃の松前の商家では、このような大鉢に各種料理を多人数分盛り合わせた宴会スタイルのいわゆる「皿鉢料理」が好まれていた可能性がある。また、同じ遺構からは素焼きの焜炉（七輪・手炙り）も数個体見ついている。一般に、磁器や陶器と異なり、素焼きの製品の生産地や年代を特定することは難しいが、今回見つかったものは、享保年間と推定される火災の後片付けに伴っていることから、年代の基準になる貴重な資料といえる。今後これら素焼きの焜炉類の生産地を特定する必要がある。

④ 上から4番目の生活面（5層上面）で確認された火災は、被災した陶磁器から17世紀前葉頃と考えられる。17世紀代の福山城下の火災に関する古記録は確認されておらず、本調査によって初めて火災の存在が明らかとなった。

⑤ 上から5番目の生活面（6層上面）で検出された胎土目積の唐津焼小皿を上下に合わせ口の状態で置いた地鎮遺構は、近世初期の松前では町屋でも地鎮が行われたことを示す遺構として、重要である。なお、唐津焼の小皿は上下とも灯明皿を転用しており、付着した炭化物の年代測定と脂質分析を外部機関に依頼した。分析結果から推定される油種については別稿で示したい。



⑥ 最も古い生活面（9層上面）は地山の砂層の上面で、出土遺物から17世紀初頭に比定できる。7～5層はいずれも16世紀末～17世紀初頭の遺物を主体としており、時期的な差はほとんどなく、いずれも慶長～元和年間頃の盛土層である。当初、海岸に面した砂浜に町が営まれたが、その直後に上位の段丘面からの客土を用いて厚さ約1mもの盛土がなされたと推測される。

⑦ 大窯4期後半の瀬戸美濃焼天目茶碗、唐津焼沓茶碗、唐津焼水指、信楽焼茶壺、茶臼などの茶道具は、近世初期から福山城下町が都市として繁栄していたことを物語っている。

以上、四つの口の一つ松前では、福山館の築城に併行し慶長期から城下町が形成され始め、町の中心部では度重なる火災などにより幕末まで整地・盛土が繰り返された。層位的に出土した陶磁器の産地や器種組成は、松前が近世を通して日本海交易の北の拠点であったことを示している。一方で近世初頭の盛土層である5層からはアイヌが使用した鹿角製の中柄が出土し、彼らが松前藩主への御目見や交易のために松前城下に往来していたことが考古学的に確認できた。2017年の調査地点では形態・材質ともに均一性の高い14点のガラス玉が出土し、幕末に松前でアイヌ向けのガラス玉が生産されていた可能性を指摘した（関根編2018）。松前が単なる最北の近世城下町ではなく、蝦夷地と内地を結ぶ境界の都市であったことが改めて考古学的に確かめられた。

末筆ではありますが、研究資金を提供いただいた公益財団法人三菱財団ならびに調査に全面的な協力を賜った松前町教育委員会、発掘調査を許可いただいた松尾商店、石質鑑定をしていただいた本学の柴正敏名誉教授、動物遺存体の同定を行っていただいた帝京大学山梨文化財研究所の植月学准教授、金属製品の保存処理と材質分析を行っていただいた本学の片岡太郎講師、調査地点に関する史料調査をはじめ調査全般でお世話になった松前町教育委員会の佐藤雄生氏、そして調査参加者の皆様に深く感謝申し上げます。

#### 【註】

- 1) 松前藩の場合、中書院は石高200石前後で用人・目付・奉行クラスにあたる。
- 2) 「於松前家中申渡ス」（『松前町史』史料編1所収）

#### 【引用文献】

- 佐賀県立九州陶磁文化館2018『古武雄－ふるさと大地の記憶』  
関根達人2014『中近世の蝦夷地と北方交易』吉川弘文館  
関根達人2016『モノから見たアイヌ文化史』吉川弘文館  
関根達人2018『墓石が語る江戸時代』吉川弘文館歴史文化ライブラリー464  
関根達人編2012『松前の墓石から見た近世日本』北海道出版企画センター  
関根達人編2013『函館・江差の近世墓標と石造物』平成22～25年度科学研究費補助金基盤研究A研究成果報告書  
関根達人編2018『松前藩福山城下町の考古学的研究1』  
北海道埋蔵文化財センター2012『松前町福山城下町遺跡』北海道埋蔵文化財センター調査報告書290  
松前町教育委員会2006『福山城・福山城下町遺跡』  
松前町教育委員会2007『福山城下町遺跡Ⅱ』  
松前町教育委員会2008『福山城下町遺跡Ⅳ』  
松前町教育委員会2015『福山城下町遺跡Ⅴ』  
松前町史編集室1974『松前町史』史料編1